－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	医療と臨床心理学						
担当教員	小林　北斗						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	医療現場において臨床心理学がどのように活かされているかを学び、またそれらを通じて自己や他者の理解を促進する。
授業の概要	『医療』は臨床心理学が実践されている現場の一つである。本講義では、医療現場において働く臨床心理士に求められる知識や具体的な臨床心理学的アプローチについて学習していく。また、医療の現場では、医師、看護師、その他様々な職種と関わり、連携していくことが求められる。そのため、本講義では、他職種と関わっていく上での留意点についても触れていく。
到達目標	・精神疾患の基礎的知識を説明することができる ・医療の現場で活かされている臨床心理学的知識，およびアプローチについて説明することができる ・自分自身や周囲の人々のメンタルヘルスについて考えることができる
授業計画	第１回　医療心理学　本講義についての概要 第２回　医療現場において心理職に期待されること 第３回　医療現場で求められる知識①　精神疾患 第４回　医療現場で求められる知識②　発達障害 第５回　医療現場で求められる知識③　薬物療法 第６回　医療現場で用いられる心理技法①　心理アセスメント（知能検査） 第７回　医療現場で用いられる心理技法②　心理アセスメント（質問紙法） 第８回　医療現場で用いられる心理技法③　心理アセスメント（投映法） 第９回　医療現場で用いられる心理技法④　認知行動療法 第１０回　医療現場で用いられる心理技法⑤　認知行動療法（Ⅱ） 第１１回　医療現場で用いられる心理技法⑥　その他の心理療法 第１２回　医療現場で用いられる心理技法⑦　その他の心理療法（Ⅱ） 第１３回　他職種との連携 第１４回　講義全体の整理とまとめ 第１５回　講義の理解度の確認　試験
授業外における学習（準備学習の内容）	・新聞やテレビなどで取り上げられているメンタルヘルスなどについて積極的に調べてほしい。 ・講義で話された内容の中で自分の興味のある内容について、自分で調べる姿勢を持ってほしい。
授業方法	適宜、資料を提示し，その資料に沿って講義を行う。また様々な心理尺度を使い、経験してもらう。
評価基準と評価方法	試験60%、平常点30%、ミニレポート10%で評価する。
教科書	特になし。参考文献に関してはその都度、講義中に紹介する。
参考書	参考文献はその都度、講義中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学A						
担当教員	久津木　文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学系大学院入試の専門英語対策
授業の概要	大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能力が必要である。この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。
到達目標	心理の専門的な英文を数多く読むことで、心理学の基礎的な知識をつけることができるとともに、長文の専門的な英文に対して物怖じしないようになる。
授業計画	1. オリエンテーション 2. 心理学のアプローチ 3. 心理学における問題 4. Cognitive psychology: origins of memory 5. Cognitive psychology: STM, LTM and duration 6. Cognitive psychology: nature of memory 7. Cognitive psychology: working memory 8. Developmental psychology: Early social development 9. Developmental psychology: attachment 10.Developmental psychology: Bowlby's theory 11.Developmental psychology: types of attachment 12.Perception: Top down process 13.Perception: Bottom up process 14.Perception: Development 15.Perception: Nature-Nurture debate
授業外における学習（準備学習の内容）	英文で扱う内容は日本語で十分わかっていないと理解できない。よって、英文をただ機械的に訳す作業だけにとらわれず、扱われている内容を日本語で十分学習していくことが必須である。つまり、事前に日本語の概論書などで当該の箇所を読んで理解しておくことが必要である。
授業方法	論文講読
評価基準と評価方法	課題（２０％）、授業準備・ディスカッション（８０％）
教科書	適宜紹介
参考書	適宜紹介

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学B						
担当教員	久津木　文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学系大学院入試の専門英語対策としての授業
授業の概要	大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能力が必要である。この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。
到達目標	大学院入試レベルの専門英語問題が解けるようになる。英語の論文に対する苦手意識を軽減することができる。
授業計画	1.オリエンテーション 2.Perception: Face recognition & Agnosia 3.Learning: Classical conditioning 4.Learning: Operant conditioning 5.Learning: Conditioning and behavior of animals 6.Social psychology: Conformity 7.Social psychology: Conformity to majority 8.Social psychology: Criticism and evaluation of conformity studies 9.Social psychology: Obedience to authority 10.Psychopathology: Definitions of abnormalities 1 11.Psychopathology: Definitions of abnormalities 2 12.Psychopathology: Biological approach 13.Psychopathology: Psychodynamic approach 14.Psychopathology: Behavioral approach 15.Psychopathology: Cognitive approach
授業外における学習（準備学習の内容）	英文で扱う心理学のトピックや内容を日本語でも十分把握しておくことが必須。
授業方法	論文講読　発表形式
評価基準と評価方法	課題（２０％）、授業準備・ディスカッション（８０％）
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング基礎演習						
担当教員	安達　圭一郎						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	カウンセリング技法の基礎について概説するとともに、具体的技法の体験的習熟を目指す
授業の概要	ロールプレイ（役割演技）を通して、援助的なコミュニケーションの方法を体験学習する。1対1でのカウンセリング場面を想定し、クライエントの「自信・元気・可能性・安心感」を引き出すための方法を学ぶ。
到達目標	・5つの基礎的なカウンセリング技法について、その実践的意味を説明できる。 ・ロールプレイを通じて、基礎的な5つの技法を用いながら、模擬的カウンセリングを実行できる。
授業計画	第1回　授業内容と進め方についてオリエンテーション・グループ分け（自己紹介） 第2回　ロールプレイと討論 第3回　傾聴技法について（講義） 第4回　ロールプレイ1-1　うなずき（体験学習） 第5回　ロールプレイ1-2　うなずき（問題点や改善点のグループ内での共有） 第6回　グループ報告とディスカッション、安全空間について（講義） 第7回　ロールプレイ2-1　繰り返し（体験学習） 第8回　ロールプレイ2-2　繰り返し（問題点や改善点のグループ内での共有） 第9回　グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第10回　ロールプレイ3-1　感情の明確化と支持（体験学習） 第11回　ロールプレイ3-2　感情の明確化と支持（問題点や改善点のグループ内での共有） 第12回　グループ報告とディスカッション、感情を扱うことのカウンセリング的な意味（講義） 第13回　ロールプレイ4-1　質問技法（体験学習とグループ内の共有） 第14回　グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第15回　まとめとレポートの作成
授業外における学習（準備学習の内容）	こうした技法が実際の臨床場面でどのように活用されているのか、書籍などを通じて理解を深めてほしい。
授業方法	演習中心でおこなう。
評価基準と評価方法	平常点60%（遅刻・欠席については減点の対象になる）、ロールプレイへの取り組み30%、レポート10%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング基礎演習						
担当教員	安達　圭一郎						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	カウンセリング技法の基礎について概説するとともに、具体的技法の体験的習熟を目指す
授業の概要	ロールプレイ（役割演技）を通して、援助的なコミュニケーションの方法を体験学習する。1対1でのカウンセリング場面を想定し、クライエントの「自信・元気・可能性・安心感」を引き出すための方法を学ぶ。
到達目標	・5つの基礎的なカウンセリング技法について、その実践的意味を説明できる。 ・ロールプレイを通じて、基礎的な5つの技法を用いながら、模擬的カウンセリングを実行できる。
授業計画	第1回　授業内容と進め方についてオリエンテーション・グループ分け（自己紹介） 第2回　ロールプレイと討論 第3回　傾聴技法について（講義） 第4回　ロールプレイ1-1　うなずき（体験学習） 第5回　ロールプレイ1-2　うなずき（問題点や改善点のグループ内での共有） 第6回　グループ報告とディスカッション、安全空間について（講義） 第7回　ロールプレイ2-1　繰り返し（体験学習） 第8回　ロールプレイ2-2　繰り返し（問題点や改善点のグループ内での共有） 第9回　グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第10回　ロールプレイ3-1　感情の明確化と支持（体験学習） 第11回　ロールプレイ3-2　感情の明確化と支持（問題点や改善点のグループ内での共有） 第12回　グループ報告とディスカッション、感情を扱うことのカウンセリング的な意味（講義） 第13回　ロールプレイ4-1　質問技法（体験学習とグループ内の共有） 第14回　グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第15回　まとめとレポートの作成
授業外における学習（準備学習の内容）	こうした技法が実際の臨床場面でどのように活用されているのか、書籍などを通じて理解を深めてほしい。
授業方法	演習中心でおこなう。
評価基準と評価方法	平常点60%（遅刻・欠席については減点の対象になる）、ロールプレイへの取り組み30%、レポート10%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング上級演習						
担当教員	坂本　真佐哉						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	カウンセリングの理論にもとづいた高度なコミュニケーション・スキルを身につける。
授業の概要	カウンセリングについて理論的に学びながら、応答技法を中心に体験的に学ぶ。ロールプレイでの会話実践を録音し、逐語録で振り返るとともにディスカッションを通して、さまざまな応答の可能性について相互にディスカッションしながら学ぶ。 大学院への進学や就職先で活かすための高度なコミュニケーション・スキルを習熟することを目的とする。
到達目標	１．カウンセリングで用いられる基本的な技法について説明できる。 ２．知識として学んだ応答技法を会話の中で使いこなし、アクティブ・リスニングができるようになる。 ３．会話のプロセスについて振り返り、流れについて客観的立場より解説できるようになる。
授業計画	第１回　　授業のガイダンスおよびカウンセリングの倫理について 第２回　　ベースラインとしてのロールプレイ実践と記録 第３回　　かかわり技法と場の設定 第４回　　応答技法（１）非言語的反応と反映技法の基本 第５回　　応答技法（２）反映技法を深める 第６回　　応答技法（３）質問技法の基本 第７回　　応答技法（４）より積極的に傾聴する 第８回　　応答技法のまとめとロールプレイ記録 第９回　　ベースラインの逐語録との比較およびディスカッション 第１０回　介入技法（１）対決技法について学ぶ 第１１回　介入技法（２）動機付けの低い状況への理解と対処 第１２回　介入技法（３）葛藤状況への対処（個人を対象としたアプローチ） 第１３回　介入技法（４）葛藤状況への対処（複数を対象としたアプローチ） 第１４回　介入技法のまとめとロールプレイ記録 第１５回　振り返りと総括
授業外における学習（準備学習の内容）	・ロールプレイを録音し、逐語録にする。 ・レポート課題。
授業方法	講義とロールプレイおよびグループ・ディスカッション
評価基準と評価方法	１．ロールプレイやディスカッションへの参加態度 ２．逐語録作成とレポート課題 ３．平常点（ロールプレイやディスカッションへの参加態度など）50%、逐語録やレポート課題50%
教科書	なし
参考書	必要に応じて紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	家族心理学						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	現代日本社会における家族の心理の理解
授業の概要	現代日本の家族は，社会と密接な関係を保ちつつ変化している．たとえば，少子化，晩婚化，離婚の増加，母親の就労，高齢化などである．本講義では，夫婦関係，親子関係を中心に，それらの現代的特徴と心理的影響について学習する．
到達目標	家族の抱える問題は，家族内だけではなく現代社会と密接に関連することを理解すること。
授業計画	第１回　オリエンテーション　家族の定義，同一性，機能 第２回　生殖環境，家族アイデンティティ 第３回　シャドウワークとカップル心理 第４回　恋愛と配偶者選択 第５回　夫婦の損得勘定 第６回　母娘関係１　「イグアナの娘」のアクティブ・ラーニング 第７回　母娘関係２　「イグアナの娘」のアクティブラーニング・グループ発表 第８回　ドメスティック・バイオレンス 第９回　育児ストレス 第１０回　中高年期の夫婦関係 第１１回　家族内のジェンダー社会化世代間連鎖に関する調査研究の解説 第１２回　ワークライフ・バランス、多重役割 第１３回　家族の福祉、社会政策 第１４回　質疑応答 第１５回　後期試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介する参考文献や，心理学科のサイトの推薦図書を自主的に読む。 授業で使用したスライドを各自で印刷して，復習する。
授業方法	講義形式 （アクティブ・ラーニングを一部含む）
評価基準と評価方法	平常点３０％，　定期試験７０％
教科書	なし
参考書	「家族心理学」　榎本博明(編著)　おうふう　2009

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学校と臨床心理学						
担当教員	黒崎　優美						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	教育的課題に対する臨床心理学的理解
授業の概要	目的：　学校で起きているさまざまな問題について、臨床心理学的接近法に基づき理解していくことを目的とします。 概要：　いじめや不登校などの教育的課題について、臨床心理学的理論に基づく理解や接近の方法を紹介し、身近な素材や事例用いて理解を深めます。ワークや発表を通じて応用力を高め、その成果を共有します。
到達目標	学校教育にかかわる諸問題について理解を深め、臨床心理学的な観点から説明することができる。 授業で得られた理解を、自分自身や日常生活上の諸問題に応用することができる、また、それを言語化し他者と共有することができる。
授業計画	第１回　導入　～学校とは何か？～ 第２回　“空気”としての学校 第３回　「居場所」の心理 第４回　「いじめ」の心理(1)　～いじめ問題とその問題～ 第５回　「いじめ」の心理(2)　～いじめが起きるメカニズム～ 第６回　「いじめ」の心理(3)　～いじめへの対処法～ 第７回　「不登校」の心理(1)　～不登校問題とその問題～ 第８回　「不登校」の心理(2)　～不登校というつながり～ 第９回　「不登校」の心理(3)　～不登校はいつ終わるのか～ 第10回　「学ぶこと」の心理(1)　～情緒的体験としての学ぶこと～ 第11回　「学ぶこと」の心理(2)　～教育という関係のなかで学ぶこと～ 第12回　「学ぶこと」の心理(3)　～学ぶことの難しさ～ 第13回　スクールカウンセラーの仕事(1) 第14回　まとめと試験 第15回　課題発表
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：　教育的課題や臨床心理学に関する本を読み自分なりの理解や疑問をもって授業に臨んでください。 授業後学習：　授業内で紹介する参考書を読みさらに理解を深め新たな疑問をみつけてください。身近な素材を授業で得た理解と結びつけ「素材発見カード」にまとめ提出してください(任意、随時受付)。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点(授業レポート、素材発見カード)　60% 期末試験　20% 課題(授業内ワークのまとめ、もしくは課題発表)　20%
教科書	プリントを配布します
参考書	授業内で紹介します

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学習心理学						
担当教員	陳　香純						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	人間を含む動物が,それぞれの環境で適応するための手段として学習がある。経験を通じて行動や考え方を変化させる学習の基礎課程を扱う。
授業の概要	人間の行動のルーツを考えたとき,その多くが学習過程に依存していることに気付く。人間が主体的に環境,とりわけ周囲の人間との関わりの中で様々な行動を獲得し,抑制している過程を説明するためには2つの条件づけを理解することが必須である。本講義では,これら2つの条件づけを中心に,行動のメカニズムを探っていく。
到達目標	・人間の行動様式を支えているものが学習であることを理解する。 ・2つの条件づけの基礎課程を理解する。 ・一人ひとりの日常的な行動を学習心理学の視点から見つめられるようになる。
授業計画	1. オリエンテーション：学習心理学とは何か 2. 生得的行動 / 様々な行動と学習との関わり 3. 古典的条件づけ1：馴化と鋭敏化 4. 古典的条件づけ2：獲得過程と刺激般化 5. 古典的条件づけ3：消去と自発的回復 6. 古典的条件づけ4：信号機能 7. 古典的条件づけの応用 8. オペラント条件づけ1：効果の法則と参考随伴性 9. オペラント条件づけ2：強化 10. オペラント条件づけ3：消去と弱化 11. オペラント条件づけ4：刺激性制御 12. オペラント条件づけの応用 13. 応用行動分析学1：DVD学習(応用行動分析の現場について) 14. 応用行動分析学2：介入計画および実施方法 15. 定期試験実施とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の行動と授業で扱う学習過程の関わりを積極的に考える。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点10%, 定期試験90%
教科書	随時プリントを配布する。
参考書	実森正子・中島定彦 (2000). 学習の心理―行動のメカニズムを探る. サイエンス社 中島定彦 (2002). アニマルラーニング―動物のしつけと訓練の科学. ナカニシヤ出版 杉山尚子 (2005). 行動分析学入門―ヒトの行動の思いがけない理由. 集英社新書 奥田健次 (2012). メリットの法則―行動分析学・実践編. 集英社新書

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	久津木　文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマについて、発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、心理学史上の重要な研究や、身近な人間関係の心理に関する文献講読を通じて、心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法について学びます。その上で、自分で調べたいテーマを決定し、調査計画をパワーポイント資料としてまとめ、発表を行います。後期「基礎演習Ｂ」で、実際に調査・分析と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。
到達目標	心理学の本を読み、身近な問題を心理学の概念や考え方と結びつけることができる。 グループディスカッションを通して調査テーマを考え、仮説を立て、仮説を検証するための質問項目を作ることができる。 調査計画（問題、目的）をわかりやすく発表できる。
授業計画	第 1回　オリエンテーション、自己紹介 第 2回　図書館オリエンテーション(Pa)(Pb) 本を読み発表する(1)(Pc)(指定の本から各自が興味を持った章を選び、内容をまとめる) 第 3回　図書館オリエンテーション(Pc) 本を読み発表する(1)(Pa)(Pb) 第 4回　本を読み発表する(2)(まとめた内容をクラス内で発表する) 第 5回　教科書を読みまとめる(1)(同一の章を読み、書き込み式のプリントを用いてまとめ方を学ぶ) 第 6回　質問項目を作る(心理学の調査研究に適した質問項目の作成方法について学ぶ) 第 7回　教科書を読みまとめる(2)(各自が興味を持った章を読み、まとめた内容を班内で発表する) 第 8回　教科書を読みまとめる(3)(班ごとに選んだ章についてまとめ、発表資料を作成する) 第 9回　教科書を読みまとめる(4)(作成した資料を用いて、クラス内で発表する) 第10回　調査計画の決定(1)(班ごとに決めたテーマに沿って、各自の問いと仮説を作成する) 第11回　調査計画の決定(2)(各自で作成した問いと仮説について、班内発表とディスカッションを行う) 第12回　発表資料の作成(1)(各自の調査計画について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回　発表資料の作成(2)(発表資料を完成させ、ファイルを提出する) 第14回　調査計画の発表(1)(各自の調査計画について、クラス内で発表する) 第15回　調査計画の発表(2)
授業外における学習（準備学習の内容）	心理学の本を自発的に読む。 テーマに関する情報を収集・整理する。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%、授業態度20%、発表資料と発表20%
教科書	永房典之　2008　なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理　金子書房
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	黒崎　優美						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマについて、発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、心理学史上の重要な研究や、身近な人間関係の心理に関する文献講読を通じて、心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法について学びます。その上で、自分で調べたいテーマを決定し、調査計画をパワーポイント資料としてまとめ、発表を行います。後期「基礎演習Ｂ」で、実際に調査・分析と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。
到達目標	心理学の本を読み、身近な問題を心理学の概念や考え方と結びつけることができる。 グループディスカッションを通して調査テーマを考え、仮説を立て、仮説を検証するための質問項目を作ることができる。 調査計画（問題、目的）をわかりやすく発表できる。
授業計画	第 1回　オリエンテーション、自己紹介 第 2回　図書館オリエンテーション(Pa)(Pb) 本を読み発表する(1)(Pc)(指定の本から各自が興味を持った章を選び、内容をまとめる) 第 3回　図書館オリエンテーション(Pc) 本を読み発表する(1)(Pa)(Pb) 第 4回　本を読み発表する(2)(まとめた内容をクラス内で発表する) 第 5回　教科書を読みまとめる(1)(同一の章を読み、書き込み式のプリントを用いてまとめ方を学ぶ) 第 6回　質問項目を作る(心理学の調査研究に適した質問項目の作成方法について学ぶ) 第 7回　教科書を読みまとめる(2)(各自が興味を持った章を読み、まとめた内容を班内で発表する) 第 8回　教科書を読みまとめる(3)(班ごとに選んだ章についてまとめ、発表資料を作成する) 第 9回　教科書を読みまとめる(4)(作成した資料を用いて、クラス内で発表する) 第10回　調査計画の決定(1)(班ごとに決めたテーマに沿って、各自の問いと仮説を作成する) 第11回　調査計画の決定(2)(各自で作成した問いと仮説について、班内発表とディスカッションを行う) 第12回　発表資料の作成(1)(各自の調査計画について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回　発表資料の作成(2)(発表資料を完成させ、ファイルを提出する) 第14回　調査計画の発表(1)(各自の調査計画について、クラス内で発表する) 第15回　調査計画の発表(2)
授業外における学習（準備学習の内容）	心理学の本を自発的に読む。 テーマに関する情報を収集・整理する。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%、授業態度20%、発表資料と発表20%
教科書	永房典之　2008　なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理　金子書房
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	榊原　久直						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学への関心を形にしよう
授業の概要	これから大学で「心理学」を学んでいくに当たって、心理学への関心を深め、自らが関心をもったテーマについて、発表資料として形にすることを目的とした授業です。具体的には、心理学史上の重要な研究や、身近な人間関係の心理に関する文献講読を通じて、心理学とは何か、心理学の考え方・調査方法について学びます。その上で、自分で調べたいテーマを決定し、調査計画をパワーポイント資料としてまとめ、発表を行います。後期「基礎演習Ｂ」で、実際に調査・分析と発表を行い、自分の考えたことを人に伝える力を養います。
到達目標	心理学の本を読み、身近な問題を心理学の概念や考え方と結びつけることができる。 グループディスカッションを通して調査テーマを考え、仮説を立て、仮説を検証するための質問項目を作ることができる。 調査計画（問題、目的）をわかりやすく発表できる。
授業計画	第 1回　オリエンテーション、自己紹介 第 2回　図書館オリエンテーション(Pa)(Pb) 本を読み発表する(1)(Pc)(指定の本から各自が興味を持った章を選び、内容をまとめる) 第 3回　図書館オリエンテーション(Pc) 本を読み発表する(1)(Pa)(Pb) 第 4回　本を読み発表する(2)(まとめた内容をクラス内で発表する) 第 5回　教科書を読みまとめる(1)(同一の章を読み、書き込み式のプリントを用いてまとめ方を学ぶ) 第 6回　質問項目を作る(心理学の調査研究に適した質問項目の作成方法について学ぶ) 第 7回　教科書を読みまとめる(2)(各自が興味を持った章を読み、まとめた内容を班内で発表する) 第 8回　教科書を読みまとめる(3)(班ごとに選んだ章についてまとめ、発表資料を作成する) 第 9回　教科書を読みまとめる(4)(作成した資料を用いて、クラス内で発表する) 第10回　調査計画の決定(1)(班ごとに決めたテーマに沿って、各自の問いと仮説を作成する) 第11回　調査計画の決定(2)(各自で作成した問いと仮説について、班内発表とディスカッションを行う) 第12回　発表資料の作成(1)(各自の調査計画について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回　発表資料の作成(2)(発表資料を完成させ、ファイルを提出する) 第14回　調査計画の発表(1)(各自の調査計画について、クラス内で発表する) 第15回　調査計画の発表(2)
授業外における学習（準備学習の内容）	心理学の本を自発的に読む。 テーマに関する情報を収集・整理する。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%、授業態度20%、発表資料と発表20%
教科書	永房典之　2008　なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理　金子書房
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	久津木　文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう
授業の概要	心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法に基づき、質問紙の作成、調査の実施、データの分析をしながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習Ａ」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を心理学の論文形式にまとめながら学術論文の書き方について学びます。最後に、調査研究全体の内容を発表します。
到達目標	グループで協力して心理学の質問紙を作成し、データを収集することができる。 調査データのExcelによる基礎的な分析を行い、結果を図表にまとめることができる。 心理学の学術論文形式に沿った論文をwordで作成できる。 調査研究の内容をわかりやすく発表できる。
授業計画	第 1回　質問紙の作成(1)(「基礎演習Ａ」で発表した調査計画に沿って、Wordを用いて質問紙を作成する) 第 2回　質問紙の作成(2)(質問紙を完成させ、提出する) 第 3回　質問紙への回答、データの入力 (全クラスで作成された質問紙に回答し、Excelを用いて班ごとにデータを入力する) 第 4回　読んだ本について発表する(調査テーマに関連する本を読みまとめた内容をクラス内で発表する) 第 5回　調査データの読み方(データ分析のために必要な調査データの読み方について学ぶ) 第 6回　データ分析(1)(得られたデータについて、単純集計や基本統計量の算出を行う) 第 7回　データ分析(2)(得られたデータについて、クロス集計表の作成や相関係数の算出を行う) 第 8回　データ分析(3)(得られたデータの分析結果を図表にまとめる) 第 9回　論文作成(1)(調査研究全体のうち、問題と方法の内容を論文形式にまとめる) 第10回　論文作成(2)(結果の内容を論文形式にまとめる) 第11回　論文作成(3)(考察の内容を論文形式にまとめる。論文を完成させる) 第12回　発表ファイルの作成(研究結果について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回　論文と発表ファイルの個別指導 第14回　調査研究発表(1)(各自の調査研究全体の内容をクラス内で発表する) 第15回　調査研究発表(2)
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中の課題を復習し、Excelの操作に慣れておく
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%、授業態度20%、発表資料と発表20%
教科書	※授業内で指定する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	黒崎　優美						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう
授業の概要	心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法に基づき、質問紙の作成、調査の実施、データの分析をしながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習Ａ」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を心理学の論文形式にまとめながら学術論文の書き方について学びます。最後に、調査研究全体の内容を発表します。
到達目標	グループで協力して心理学の質問紙を作成し、データを収集することができる。 調査データのExcelによる基礎的な分析を行い、結果を図表にまとめることができる。 心理学の学術論文形式に沿った論文をwordで作成できる。 調査研究の内容をわかりやすく発表できる。
授業計画	第 1回　質問紙の作成(1)(「基礎演習Ａ」で発表した調査計画に沿って、Wordを用いて質問紙を作成する) 第 2回　質問紙の作成(2)(質問紙を完成させ、提出する) 第 3回　質問紙への回答、データの入力 (全クラスで作成された質問紙に回答し、Excelを用いて班ごとにデータを入力する) 第 4回　読んだ本について発表する(調査テーマに関連する本を読みまとめた内容をクラス内で発表する) 第 5回　調査データの読み方(データ分析のために必要な調査データの読み方について学ぶ) 第 6回　データ分析(1)(得られたデータについて、単純集計や基本統計量の算出を行う) 第 7回　データ分析(2)(得られたデータについて、クロス集計表の作成や相関係数の算出を行う) 第 8回　データ分析(3)(得られたデータの分析結果を図表にまとめる) 第 9回　論文作成(1)(調査研究全体のうち、問題と方法の内容を論文形式にまとめる) 第10回　論文作成(2)(結果の内容を論文形式にまとめる) 第11回　論文作成(3)(考察の内容を論文形式にまとめる。論文を完成させる) 第12回　発表ファイルの作成(研究結果について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回　論文と発表ファイルの個別指導 第14回　調査研究発表(1)(各自の調査研究全体の内容をクラス内で発表する) 第15回　調査研究発表(2)
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中の課題を復習し、Excelの操作に慣れておく
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%、授業態度20%、発表資料と発表20%
教科書	※授業内で指定する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	榊原　久直						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	調べて分析し、伝えよう
授業の概要	心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法に基づき、質問紙の作成、調査の実施、データの分析をしながら学ぶことを目的とした授業です。前期の「基礎演習Ａ」で形にした心理学への関心をもとに「質問紙」を作成し、質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析します。そして、その結果を心理学の論文形式にまとめながら学術論文の書き方について学びます。最後に、調査研究全体の内容を発表します。
到達目標	グループで協力して心理学の質問紙を作成し、データを収集することができる。 調査データのExcelによる基礎的な分析を行い、結果を図表にまとめることができる。 心理学の学術論文形式に沿った論文をwordで作成できる。 調査研究の内容をわかりやすく発表できる。
授業計画	第 1回　質問紙の作成(1)(「基礎演習Ａ」で発表した調査計画に沿って、Wordを用いて質問紙を作成する) 第 2回　質問紙の作成(2)(質問紙を完成させ、提出する) 第 3回　質問紙への回答、データの入力 (全クラスで作成された質問紙に回答し、Excelを用いて班ごとにデータを入力する) 第 4回　読んだ本について発表する(調査テーマに関連する本を読みまとめた内容をクラス内で発表する) 第 5回　調査データの読み方(データ分析のために必要な調査データの読み方について学ぶ) 第 6回　データ分析(1)(得られたデータについて、単純集計や基本統計量の算出を行う) 第 7回　データ分析(2)(得られたデータについて、クロス集計表の作成や相関係数の算出を行う) 第 8回　データ分析(3)(得られたデータの分析結果を図表にまとめる) 第 9回　論文作成(1)(調査研究全体のうち、問題と方法の内容を論文形式にまとめる) 第10回　論文作成(2)(結果の内容を論文形式にまとめる) 第11回　論文作成(3)(考察の内容を論文形式にまとめる。論文を完成させる) 第12回　発表ファイルの作成(研究結果について、パワーポイントを使用し発表資料を作成する) 第13回　論文と発表ファイルの個別指導 第14回　調査研究発表(1)(各自の調査研究全体の内容をクラス内で発表する) 第15回　調査研究発表(2)
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中の課題を復習し、Excelの操作に慣れておく
授業方法	演習
評価基準と評価方法	授業での課題提出など平常点60%、授業態度20%、発表資料と発表20%
教科書	※授業内で指定する
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	行動観察法						
担当教員	志澤　康弘						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	行動観察法を修得すること、同時に科学的思考と統計に対する苦手意識を減らすこと。
授業の概要	この講義では行動観察法を修得することを目的とする。 具体的には、問題の発見、研究計画、分析方法について行動観察に特有な方法を考慮しながら学ぶ。 また、行動観察に限らず、一般に人が苦手とする思考方法、確証バイアス、確率の無視という点についてを少しでも克服する方向に向けることをもう一つの目的とする。
到達目標	適切に資料を参照しながら、研究（特に行動を扱った研究）の目標設定、分析、考察が行えるようになる。 科学的思考、例えば証拠を押さえるだけではなく反証がないことを言う必要性を理解できるようになる。 統計的仮説検定で使用される式の意味を説明できるようになる。
授業計画	行動観察の導入および体験（観察とレポート） 1. 行動研究の概要 2. 映像を見て観察を体験する 3. 映像を見て分析を体験する 行動観察法（講義） 4. 問題の発見から研究の目的へ 5. 研究計画（何をどのように測定するか） 6. 行動の測定法（サンプリングの方式と記録の方式） 7. 行動の測定に関しての留意点（信頼性と妥当性他） 8. 分析方法（概論） 9. 分析方法（基礎統計量） 10. 分析方法（差の検定） 11. 統計の基礎（相関、多変量解析） 12. データの取り扱い（厳密には間隔尺度ではないデータをどのように扱うかなど） 13. レポートを振り返りながらの復習 14. 行動観察のポイントと一般社会生活における仮説検証 15. これまでの講義のまとめと整理、試験
授業外における学習（準備学習の内容）	2回目3回目は実習を行う。これについてレポートを作成する。講義資料を1回は読み返し、授業中に理解できなかった用語、考え方があれば再度資料等を読み返しそれでも不明ならば次回授業時間で質問できるよう準備する。
授業方法	講義・実習
評価基準と評価方法	レポート40%。試験60%。 授業に出席し参加することを前提とする（１回の欠席で１点減点とする、授業に参加していない態度を示す場合や、授業中に示した小レポートを提出しない、あるいはほとんど空欄で提出するなど、は評価上の出席とは見なさないことがある）。
教科書	なし
参考書	Ｐ．マーティン　＆　Ｐ．ベイトソン　1990　行動研究入門　　動物行動の観察から解析まで　東海大出版会　ISBN: 4486011376

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心の医学						
担当教員	安達　圭一郎						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	精神疾患の代表とも言える「気分障害」について取りあげる。
授業の概要	気分障害は、大うつ病性障害、双極性障害、気分変調性障害、一般身体疾患による気分障害、物質誘発性気分障害などの総称である（DSM-Ⅳ-TR）。こうした気分障害の発症件数は、1996年から2008年にかけて2.4倍にも増加してきたが、本人のみならず家族、同僚といった重要人物の理解は未だ乏しい。 本講義では、特に大うつ病性障害を中心に、発症要因や治療法などに関する現在の知見について、科学的根拠を重視した視点から解説する。
到達目標	・DSMに記載されている気分障害の種類を具体的に挙げ、その症状を説明できる。 ・大うつ病性障害の発症に関わる科学的根拠のある要因を挙げ、説明することができる。 ・大うつ病性障害に対する科学的根拠のある治療技法を複数挙げることができる。 ・身近なうつ病患者とのコミュニケーションのあり方を説明できる。
授業計画	第1回　オリエンテーション　概要説明と受講要件の確認 第2回　気分障害とは①　DSMについて 第3回　気分障害とは②　気分障害発症の要因について① 第4回　気分障害とは③　気分障害発症の要因について② 第5回　気分障害とは④　気分障害の診断について 第6回　気分障害の症状について　性格と病気の違いについて 第7回　大うつ病性障害とは　病状について 第8回　双極性障害とは　病状について 第9回　気分変調性障害とは　病状について 第10回　気分障害の治療①　薬物治療について 第11回　気分障害の治療②　日常生活について 第12回　気分障害の治療③　心理療法について 第13回　気分障害の治療④　統合的アプローチの考え方 第14回　今後の課題　心理学を学ぶ者として、何が重要か。 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	文庫本でも良いので、うつ病について取りあげた書籍、新聞記事などに目を通しておいてほしい。
授業方法	講義形式と一部演習。
評価基準と評価方法	受講態度30%、期末試験70%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心のふしぎ						
担当教員	黒崎　優美						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学入門(特に臨床心理学領域)
授業の概要	目的：　日常生活における身近な事柄からいわゆる心の病まで、心をめぐって生じるさまざまな事象について、考え、理解を深めることを目的とします。 概要：　身近な出来事や社会的に注目されている現象について、臨床心理学的にはどのように理解され扱われているかを学びます。心理学を活かした職業や、心理学が社会のなかでどのように活かされているのかについても紹介します。
到達目標	身近な出来事や社会的現象について、臨床心理学的な観点から考え説明することができる。
授業計画	第１回　導入　～心のふしぎ道の歩み方～ 第２回　心のしくみ(1)　～なぜうっかりしてしまうのか～ 第３回　心のしくみ(2)　～夢うらないは本当か～ 第４回　心のしくみ(3)　～なぜ自分にうそをつくのか～ 第５回　心のそだち(1)　～みんなおっぱいで大きくなった～ 第６回　心のそだち(2)　～自分探しってどういうこと？～ 第７回　心のそだち(3)　～最初の自分になれるまで～ 第８回　心をはかる(1)　～心の重さははかれるか～ 第９回　心をはかる(2)　～心の本当の重さははかれるか～ 第10回　心をわかる(1)　～心を病むとはどういうことか～ 第11回　心をわかる(2)　～心の痛みを知ることはできるのか～ 第12回　心をわかる(3)　～心が癒えるとはどういうことか～ 第13回　心をつなぐ(1)　～絆の功罪～ 第14回　心をつなぐ(2)　～集団の心とその病～ 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：　臨床心理学に関する本を読み自分なりの理解や疑問をもって授業に臨んでください。 授業後学習：　授業内で紹介する参考書を読みさらに理解を深め新たな疑問をみつけてください。身近な素材を授業で得た理解と結びつけ「素材発見カード」にまとめ提出してください(任意、随時受付)。
授業方法	講義、演習
評価基準と評価方法	平常点(授業レポート、素材発見カード)65%、期末試験35%
教科書	プリントを配布します
参考書	授業内で紹介します

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	子育て支援の心理学						
担当教員	榊原　久直						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	子育てとその支援について，社会・地域・個人の観点から基礎的な知識を学ぶとともに，子育ての中で生じる感情について考える
授業の概要	子育てに関した発達心理学・臨床心理学・社会福祉的な知見を学びながら，子育ての中で生じる様々な困難さやその支援についての基礎的な知識を学ぶ。
到達目標	1.子育てやその支援をする上で必要となる資源（機関や法律など）についての知識を持つ。 2.子育てという日常の営みが持つ楽しさと苦しさをどちらも理解する。 3.子育て支援について様々な立場からできることを考える視点を持つ。
授業計画	第1回：オリエンテーション　～子育てを支援すること～ 第2回：妊娠から出産まで　～親はいつから親になるの？～ 第3回：乳児の子育て①　～子どもに心はいつから宿るの？～ 第4回：乳児の子育て②　～ママだから子育てができるの？～ 第5回：子育てを取り巻く環境　～育て方と働き方～ 第6回：幼児の子育て①　～自分の形ができ始める頃～ 第7回：幼児の子育て②　～家庭以外の子どもの過ごす場ってどこ？～ 第8回：家庭の中で生じる困難さ①　～“虐待”してしまう想い～ 第9回：家庭の中で生じる困難さ②　～子育てにパパって必要？～ 第10回：子育て支援における“聞き方”を学ぼう 第11回：“ほどよい”子育てについて考えよう 第12回：セラプレイ的遊びから学ぶ親子の関係支援 第13回：子どもに必要な安心感　～アタッチメントと安心感の輪①～ 第14回：親だって必要な安心感　～アタッチメントと安心感の輪②～ 第15回：ふりかえりと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	日常の中で，親子の何気ない言動を“子どもや親の視点に立って”理解しようとするようにすること。また子どもや家族に関するテレビや小説，映画などを，子育てを巡る“心の動き”という観点から観ること。
授業方法	基本的には講義形式を用いる。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視聴覚的な資料を用いることや，ロールプレイなどの体験学習を用いる。
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度：30%／小テスト（30%）／期末レポート（40%）
教科書	特に指定せず，授業内にて資料を配布する
参考書	大豆生田啓友・太田光洋・森山史朗（編）（2014）『よくわかる子育て支援・家庭支援論』ミネルヴァ書房. ISBN：978-4-623-06948-4

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	産業カウンセリング論						
担当教員	千葉　征慶						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	「臨床心理士」「シニア産業カウンセラー」の資格ホルダーが、実際に「カウンセラー」として行っている活動内容と、その活動の背景にある心理学的知見と労働衛生行政の動向。
授業の概要	カウンセラーが行う「メンタルヘルス教育」や「メンタルヘルス事例対応」の実例を学ぶ。また、体験学習を行いながら「カウンセリングの基本スキル」を習得する。また背景知識として、主なキャリア発達理論、労働衛生行政の動向について学ぶ。
到達目標	産業カウンセラーの主要な業務が、「教育とカウンセリング」であることが理解できる。また、カウンセリングの基本となる「相手をわかる」ための「傾聴スキル」の基本が身につく。様々なチェックリスト等を用いることで、自分自身についての理解が深まる。また、これから社会に出て働く上で大切な、いくつかのキャリア発達理論や労働衛生行政の動向やルールが理解できるようになる。
授業計画	第１回:　ようこそ!産業カウンセリング論へ　　授業のガイダンスなど 第２回:　メンタルヘルス教育の実際①　　ストレス対策の4つのテーマ 第３回:　メンタルヘルス教育の実際②　　「ストレスは人生のスパイス」「鷹と鶏」の例え話 第４回:　メンタルヘルス事例対応の実際 第５回:　面接相談の基本を学ぶ　①　聴けていますか? 相手のお話「アドバイス、話が分かってこそ活きる」 第６回:　面接相談の基本を学ぶ　②　人の話の三つの要素「意識して、心して聞く、知・情・意」 第７回:　面接相談の基本を学ぶ　③　感情にふれる「フィードバック　聞くは聞くほどにものを言う」 第８回:　面接相談の基本を学ぶ　④　すぐにわからなくていい 第９回:　面接相談の基本を学ぶ　⑤　ライブで聴き合う「聞いて、語って、拍手して」 第10回:　面接場面のビデオ鑑賞 第11回:　背景知識を学ぼう　①　キャリアについて　自分の持ち味を活かす　「適材適所」という発想 第12回:　背景知識を学ぼう　②　キャリアについて　「転機」のおとずれ　　「ピンチをチャンスに」 第13回:　背景知識を学ぼう　③　キャリアについて　人生は「計画性」と「偶然性」のミックスジュース 第14回:　背景知識を学ぼう　④　労働衛生行政の歴史と法規　人に歴史あり、制度・ルールに事件あり 第15回:　まとめ、質疑応答　試験
授業外における学習（準備学習の内容）	日々の体調管理。ご自身のケアをこころがけて「朝一番」の授業に遅刻しないよう体力、健康の保持に努めること。期末になると「ブックレポート」課題図書が、「貸出し中」で手に入りにくくなるため、早めにブックレポート作成に取り掛かること。（参考書の欄を参照のこと）
授業方法	一方的な情報提供（講義）ではなく、体験学習をねらいとしたワークを授業に取り入れる。 また、受講者の理解度を確認するために、第三回、六回、九回、そして十二回目の授業中には、 「理解度確認テスト」を行う予定である。
評価基準と評価方法	出席（遅刻の有無）重視。課題として、参考図書のブックレポートの提出。試験の成績を加味する。 評価を数式で、敢えて表現すれば、下記の通り。 成績１００＝授業態度（４０）＋課題（ブックレポート）（３０）＋試験（３０） なお、第15回目授業中に「試験」を行うのでこの日の欠席者と課題未提出者には単位を与えない。 ブックレポート提出期限は、「第１４回授業の前日、教務課へ提出」にする予定である。
教科書	配布資料がテキストになる。また参考図書等の一読が、課題（プックレポート）に取り組むために有益である。
参考書	新刊キャリアの心理学　渡部三枝子編（ナカニシヤ書房）、これからの職場のメンタルヘルス　藤井久和編（創元社）、フランクルを学ぶ人のために　山田邦夫編（世界思想社）、ロゴセラピー入門シリーズ①から⑨　勝田茅生（システムパブリカ）、日本ロゴセラピスト論集第１号から７号、ストレスに負けない技術　田中ウルヴェ（日本実業出版社）、今日、わたしは心を決める　アンディ・アンドリュース（サンマーク出版）、言葉を聞く人心を聴く人　武藤清栄（中災防）その他、講師と話し合い認められたもののブックレポートは可。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会心理学A						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	主に個人，対人レベルに関する社会心理学の習得
授業の概要	個人の行動や態度、感情や性格などは、生育環境や現在の社会的環境、身近な他者の存在などによって大きく影響を受けている。反対に一人一人の行動が、思わぬ集合現象や集団的活動を引き起こす。本講義では、こうした個人と社会の相互影響についての理解をめざし、人間の対人あるいは集団行動に関する心理学的法則を学習する。前期の社会心理学Ａでは主に、自分と他者，社会との関係について学ぶ。
到達目標	心に対する社会心理学的アプローチを理解すること。
授業計画	第１回　社会心理学とは 第２回　社会心理学の方法・社会行動の原則 第３回　対人認知の基本次元、ステレオタイプ 第４回　社会的スキーマ 第５回　帰属 第６回　印象形成 第７回　自己意識 第８回　社会的比較、社会的アイデンティティ 第９回　対人魅力 第１０回　コミュニケーション 第１１回　自己開示と自己呈示 第１２回　態度 第１３回　説得 第１４回　前期授業の補足，質疑応答 第１５回　前期試験と後期授業の説明
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書を読み，予習をする。 授業中に紹介した文献（著書，論文）などを自主的に読む。
授業方法	講義形式（アクティブ・ラーニングを含む）
評価基準と評価方法	平常点30%，定期試験70%
教科書	「自ら挑戦する社会心理学」　土肥伊都子　（編著）　保育出版社　2014
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会心理学B						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	主に集団，大衆レベルに関する社会心理学の習得
授業の概要	前期の社会心理学Aに引き続き、後期のBでは主に、多数の人々との関係を扱った領域について、人間の社会行動の心理学的法則を学習する。
到達目標	心に対する社会心理学的アプローチを理解すること。 自分の意見を効果的にプレゼンテーションすること。
授業計画	第１回　社会的影響，同調と服従 第２回　意思決定，メディアからの影響（ゲスト・スピーカー招聘予定） 第３回　集団規範 第４回　援助行動，社会的迷惑 第５回　リーダーシップ 第６回　幸福感 第７回　ストレス 第８回　文化 第９回　キャリアデザイン 第１０回　アクティブ・ラーニング（「いろはことわざ創り」） 第１１回　個人発表会（プレゼンテーションの方法に注目して） 第１２回　個人発表会（発表内容の構成に注目して） 第１３回　個人発表会(発表内容から将来のために役立つことに注目して） 第１４回　質疑応答 第１５回　後期試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介する参考文献や，心理学科のサイトの推薦図書を自主的に読む。
授業方法	講義形式（アクティブ・ラーニングを含む） 個人発表
評価基準と評価方法	平常点20%，　発表10%，　定期試験70%
教科書	「自ら挑戦する社会心理学」　土肥伊都子　（編著）　保育出版社　2014
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学調査法						
担当教員	中妻　拓也						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学調査・実験に使う統計ソフトの操作の習得。
授業の概要	心理学の調査法の一つとして質問紙調査がある。本講義では質問項目の作成から分析方法をカバーする。サンプルデータを用いた解析を各自行う。キーワード（spss　統計　卒論　分析）
到達目標	卒論で使うであろう統計手法をspssで行えるようになる。よく使う統計手法の意味と数値の読み取り方がわかるようになりデータの性質と分析の目的に応じた統計方法を選択できるようになる。
授業計画	1. 心理学における調査とは１（調査の方法〉 2. 心理学における調査とは２〈調査計画〉 3. 質問紙の作成 4. データの種類：入力・反転処理・合成変数 5. 単純集計 6. 順位と複数回答の集計 7. クロス表の解析 8. 二つの平均の差の検定 9. 1-8回までの振り返り 10. 分散分析 11. 主成分分析 12. 因子分析 13. 回帰分析 14. 14回までのおさらい 15. 期末テストと期末テスト解説
授業外における学習（準備学習の内容）	基本的なパソコンの操作などは自分でわかっておくことが必要。授業で習得した操作を自分ひとりでもできるようになるよう復習が必要。必要であれば、統計に関する書籍、ネットのサイトなどを補助的に利用すること。
授業方法	講義（実習的内容を含む）
評価基準と評価方法	平常点（授業態度・課題への取り組み等）30%, 試験70%
教科書	適宜紹介
参考書	適宜紹介

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学調査法						
担当教員	中妻　拓也						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学調査・実験に使う統計ソフトの操作の習得。
授業の概要	心理学の調査法の一つとして質問紙調査がある。本講義では質問項目の作成から分析方法をカバーする。サンプルデータを用いた解析を各自行う。キーワード（spss　統計　卒論　分析）
到達目標	卒論で使うであろう統計手法をspssで行えるようになる。よく使う統計手法の意味と数値の読み取り方がわかるようになりデータの性質と分析の目的に応じた統計方法を選択できるようになる。
授業計画	1. 心理学における調査とは１（調査の方法〉 2. 心理学における調査とは２〈調査計画〉 3. 質問紙の作成 4. データの種類：入力・反転処理・合成変数 5. 単純集計 6. 順位と複数回答の集計 7. クロス表の解析 8. 二つの平均の差の検定 9. 1-8回までの振り返り 10. 分散分析 11. 主成分分析 12. 因子分析 13. 回帰分析 14. 14回までのおさらい 15. 期末テストと期末テスト解説
授業外における学習（準備学習の内容）	基本的なパソコンの操作などは自分でわかっておくことが必要。授業で習得した操作を自分ひとりでもできるようになるよう復習が必要。必要であれば、統計に関する書籍、ネットのサイトなどを補助的に利用すること。
授業方法	講義（実習的内容を含む）
評価基準と評価方法	平常点（授業態度・課題への取り組み等）30%, 試験70%
教科書	適宜紹介
参考書	適宜紹介

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	消費社会の心理学						
担当教員	前田　洋光						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	消費者理解のための心理学
授業の概要	消費者行動とは、消費者が購買し、使用・維持を経て廃棄に至るすべての行動プロセスを含んだものであり、その行動は、消費者の個人内要因や環境からの外的要因など、多様な要因から影響を受けている。本講では、消費者の購買意思決定過程や情報処理、価格判断など、幅広くトピックを取り上げ、消費者を取り巻く問題を論考していく。受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考え、よりよい消費生活を考えるきっかけにしてほしい。
到達目標	・さまざまな消費行動を、客観的な視点から論考することができる。 ・消費の文脈から、人間理解を深めることができる ・消費者の特性を理解した上で、マーケティング戦略との対応を考えることができる。
授業計画	1.　イントロダクション：消費者行動とは？ 2.　消費者の購買意思決定過程（１）：消費者の問題認識と情報探索、多属性態度モデル 3.　消費者の購買意思決定過程（２）：購買意思決定を左右する要因 4.　消費者の購買意思決定過程（３）：不合理な購買意思決定 5.　消費者の価格判断（１）：心理的サイフ 6.　消費者の価格判断（２）：不合理な消費者の価格判断 7. 消費者満足 8.　モノの意味と保有 9. 広告効果 10. ブランドと広告 11. プロダクトプレイスメント 12.　くちコミの概略 13.　くちコミの効果を左右する要因 14.　消費者の廃棄過程 15.　まとめとテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学習した内容を、例えば実際に店舗内（売り場）を観察する等、マーケティング戦略との関連を検討してみると、授業内容の理解が促進されると思われる。さらに深く学習するには、参考図書を熟読すること。
授業方法	講義形式でおこなう。講義毎に、当該授業のテーマに関する簡単な小レポートを実施する。
評価基準と評価方法	小レポート（30%） テスト（70%）
教科書	
参考書	杉本徹雄（編著）（2012）新・消費者理解のための心理学　福村出版

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	安達　圭一郎						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	論文作成法について教授するとともに、自らのテーマ決定、研究法選定、計画書作成を目的とする。
授業の概要	基本的には、毎回複数名が、関心のある論文の要約を、資料とともにオーラルで報告する。その場合、受講生の関心の所在によって、指導内容も異なってくるが、基本的には受講生全員によるディスカッションを多く取り入れ、相互のテーマについて批評をおこなう。
到達目標	・心理学専門雑誌から自己が関心をもつ論文を検索できる。 ・検索した論文の概要をまとめ、ゼミ内で発表できる。 ・発表時、出された質疑に答えることができる。 ・卒業論文のテーマを設定し、関連する諸論文を収集する。
授業計画	第1回　オリエンテーション　概要説明と割り当て 第2回　文献検索①　関心のあるテーマに沿った文献の検索法について学ぶ① 第3回　文献検索②　関心のあるテーマに沿った文献の検索法について学ぶ② 第4回　研究論文の発表①　検索した論文をまとめて報告する① 第5回　研究論文の発表②　検索した論文をまとめて報告する② 第6回　研究論文の発表③　検索した論文をまとめて報告する③ 第7回　研究論文の発表④　検索した論文をまとめて報告する④ 第8回　研究論文の発表⑤　検索した論文をまとめて報告する⑤ 第9回　研究論文の発表⑥　検索した論文をまとめて報告する⑥ 第10回　研究論文の発表⑦　検索した論文をまとめて報告する⑦ 第11回　研究論文の発表⑧　検索した論文をまとめて報告する⑧ 第12回　研究論文の発表⑨　検索した論文をまとめて報告する⑨ 第13回　研究論文の発表⑩　検索した論文をまとめて報告する⑩ 第14回　先行研究のまとめ①　テーマを決定し、問題・目的を作成する① 第15回　先行研究のまとめ②　テーマを決定し、問題・目的を作成する②
授業外における学習（準備学習の内容）	文献の検索法を習得した後は、関心のあるテーマに関する文献を徹底的に読み、まとめること。
授業方法	ゼミナール形式
評価基準と評価方法	受講態度50%、レポート50%
教科書	
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	大和田　攝子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	被害者支援や死生学に関連する文献を読む。
授業の概要	被害者支援や死生学に関するテーマ、およびその関連領域についての文献を講読し、さまざまな問題や支援のあり方について学習する。毎回担当者を決め、指定された本の内容を紹介し、受講生全員で議論を深める。 具体的には、以下のような内容を扱う予定である。 犯罪被害者の心理と支援、末期患者や家族の心理と支援、病名告知、ホスピス緩和ケア、生命倫理など。
到達目標	1. 被害者支援や死生学に関連する文献を読み、要点をまとめて発表することができる。 2. 被害者支援や死生学に関連する文献を読み、それに対する自らの考えを述べることができる。 3. 国内や海外で発表された文献を検索し、収集することができる。
授業計画	第1回：オリエンテーション、発表割り当て 第2回：文献検索の方法を学ぶ 第3回：文献講読とディスカッション（1） 第4回：文献講読とディスカッション（2） 第5回：文献講読とディスカッション（3） 第6回：文献講読とディスカッション（4） 第7回：文献講読とディスカッション（5） 第8回：文献講読とディスカッション（6） 第9回：文献講読とディスカッション（7） 第10回：文献講読とディスカッション（8） 第11回：文献講読とディスカッション（9） 第12回：文献講読とディスカッション（10） 第13回：文献講読とディスカッション（11） 第14回：文献講読とディスカッション（12） 第15回：まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業は受講生の発表が中心となるので、発表者は担当する文献を熟読し、レジュメを用意すること。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	発表内容や討論への参加（40%）、平常点（60%）などを総合的に評価する。
教科書	授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	久津木　文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	発達心理学及び多文化における子どもの育ち・子育て。
授業の概要	乳幼児期の社会性、コミュニケーション、及び多文化における子どものの発達を中心とした分野の中で興味のもてそうな領域を探し、関連した研究論文を読めるようになることが第一の目的である。ただ論文を読むだけではなく、研究の結果や方法について疑問を持ち、議論できるようになってほしい。
到達目標	発達心理学についての専門的な文献を読んで理解することができるようになり、 研究に必要な手法を知ることができる。ゼミ主体で行うイベントやアクティビティへの参加を通じて発表・ディスカッションを通じて他者に意見を伝えることができるようになる。 最終的に、次年度の卒業論文につながるテーマを見つけることができる。
授業計画	１．オリエンテーション、自己紹介、発表割り当て ２．個人発表とディスカッション１ ３．個人発表とディスカッション２ ４．個人発表とディスカッション３ ５．文献検索・収集１ ６．文献検索・収集２ ７．個人発表とディスカッション（文献）１ ８．個人発表とディスカッション（文献）２ ９．個人発表とディスカッション（文献）３ １０．興味のテーマの発表とディスカッション１ １１．興味のテーマの発表とディスカッション２ １２．興味のテーマの発表とディスカッション３ １３．個人発表とディスカッション（研究計画）１ １４．個人発表とディスカッション（研究計画）２ １５．夏季休暇中の課題
授業外における学習（準備学習の内容）	毎週、分析作業、発表資料の作成等の作業が準備として必要となるので、授業時間外での学習をきちんと行ってほしい。
授業方法	ゼミナール方式
評価基準と評価方法	授業態度（２０％）、課題への取り組み（８０％）
教科書	適宜紹介する
参考書	適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	黒崎　優美						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究
授業の概要	目的：　次年度の卒業研究に向けて、研究テーマを設定し、研究論文の読み方・書き方を習得することを目的とします。 概要：　対象(対人)関係に関わる問題を中心に、興味のあるテーマについて文献を調べ、まとめた内容を発表し、全体討議を行います。そのなかから、各自の研究テーマを決定します。
到達目標	心理学の文献や研究を講読し、理解した内容をまとめて伝えることができる。 自分自身の興味・関心を心理学的な研究テーマに結びつけ、その過程を明確に伝えることができる。 全体討議への積極的参加を通して、互いの考えや発表内容に関する理解を深めることができる。 グループとして目的を共有し、その達成のために必要な作業に主体的に関わることができる。
授業計画	第１回　自己紹介、オリエンテーション 第２回　研究の方法を学ぶ(1)　～VAT（原子価査定テスト）の施行と採点～ 第３回　研究の方法を学ぶ(2)　～VATの解釈と研究への応用～ 第４回　先行研究から学ぶ(1)　～調べる～ 第５回　先行研究から学ぶ(2)　～読む～ 第６回　先行研究から学ぶ(3)　～まとめる～ 第７回　先行研究から学ぶ(4)　～伝える～ 第８回　先行研究から学ぶ(5)　～発表1回目～ 第９回　先行研究から学ぶ(6)　～発表2回目～ 第10回　研究テーマを決める(1)　～絞り込む～ 第11回　研究テーマを決める(2)　～自分の言葉で説明する～ 第12回　研究テーマを決める(3)　～調べた内容をまとめる～ 第13回　研究テーマを決める(4)　～先行研究をまとめる～ 第14回　研究テーマを決める(5)　～発表1回目～ 第15回　研究テーマを決める(6)　～発表2回目～
授業外における学習（準備学習の内容）	ゼミ内での分担作業や発表準備などを行います。 研究テーマに関する文献にもできるだけ多く触れてください。
授業方法	演習、個別指導
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度：50%、発表・提出物：50%
教科書	なし
参考書	目に見えない人と人との繋がりをはかるー原子価査定テスト(VAT)の手引き、ハフシ・メッド著、ナカニシヤ出版、ISDN10:4779504899

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	榊原　久直						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究に向けて，論文の作成法を学ぶと共に自身の研究テーマを探索する。
授業の概要	主として子どもや子育て，親支援，障碍（がい）に関連した臨床心理学領域における学術論文の形式や読み方について理解を深め，卒業研究に向けてテーマを探す。
到達目標	1.研究テーマ応じた文献を収集し，読み解くことができる。 2.文献の内容をパワーポイント等を用いて発表し，ディスカッションすることができる。 3.自分自身の研究テーマの大まかな領域やテーマを決めることができる。
授業計画	第1回：オリエンテーション　自己紹介と発表の割り当て 第2回：臨床心理学領域の研究に関する資料収集方法と論文構成について学ぶ 第3回：文献・研究の要約や発表の仕方について学ぶ 第4回：文献を基にした発表とディスカッション（１）研究テーマの探索 第5回：文献を基にした発表とディスカッション（２）研究テーマリストの作成 第6回：文献を基にした発表とディスカッション（３）リストの発表 第7回：文献を基にした発表とディスカッション（４）研究テーマの再探索 第8回：文献を基にした発表とディスカッション（５）研究テーマリストの追加 第9回：文献を基にした発表とディスカッション（６）リストの再発表 第10回：文献を基にした発表とディスカッション（７）テーマに基づく空想研究の作成 第11回：文献を基にした発表とディスカッション（８）空想研究の発表 第12回：文献を基にした発表とディスカッション（９）研究テーマの選定開始 第13回：文献を基にした発表とディスカッション（１０）研究テーマの決定 第14回：文献を基にした発表とディスカッション（１１）研究テーマに関する文献収集 第15回：授業の総括と夏休みの課題について
授業外における学習（準備学習の内容）	授業は学生の発表がメインである。毎回もしくは隔週で発表の順番が回ってくるので，卒論につながる文献や調査を自ら調べて，理解してまとめることが必要である。 また興味を持った領域の本を読み進めていくことを推奨する。
授業方法	ゼミ形式
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度：50%／発表・提出物（50%）
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	坂本　真佐哉						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	身近な問題を心理学の視点で理解し、卒業研究のテーマを探索する
授業の概要	カウンセリングや心理療法、コミュニケーションなどに関する様々な理論や技法について広く学習し、さまざまな心理的な問題の解決について理解を深める。学校現場や医療現場で行なわれている臨床実践に関わる文献を読み、討論を行う。臨床心理学領域に関する学術論文の形式、データの読み方などについて理解を深め、卒業研究のテーマをさがす。
到達目標	１．社会における問題について心理学的な視点で問題意識を持ち、説明することができる。 ２．精神的な問題や援助技法のいくつかについて、専門用語を用いて説明することができる。 ３．研究テーマに沿った文献を検索し、内容について解説することができる。
授業計画	第１回：オリエンテーション　テーマの決め方と研究の進め方 第２回：臨床心理学領域の研究領域と資料収集の方法 第３回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（１） 第４回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（２） 第５回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（３） 第６回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（４） 第７回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（５） 第８回：臨床心理学的諸問題についての文献研究と発表（６） 第９回：学術論文に関する文献研究と発表（１） 第10回：学術論文に関する文献研究と発表（２） 第11回：学術論文に関する文献研究と発表（３） 第12回：学術論文に関する文献研究と発表（４） 第13回：学術論文に関する文献研究と発表（５） 第14回：学術論文に関する文献研究と発表（６） 第15回：授業の総括と今後の課題について
授業外における学習（準備学習の内容）	１．文献検索と発表の準備 ２．研究計画の作成
授業方法	演習形式とし、すべての授業で討論や発表を行う。
評価基準と評価方法	平常点50%（授業中の発言などを参考にし、欠席した場合は減点する）、発表50%
教科書	なし
参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	社会心理学の先行研究のレビュー
授業の概要	社会心理学の研究分野の中から、学生自身が興味をもつテーマを選び、まとめ、発表する。以下にテーマの候補をあげる。自己・自己概念、対人認知、動機・感情、対人魅力、対人スキル、集団行動、リーダーシップ、社会的態度、ライフスタイル・価値観、精神的健康、職業意識、社会問題（ジェンダー、環境、福祉など）。
到達目標	社会心理学の研究論文や著書を読み，理解できるようになること。
授業計画	第１回　オリエンテーション，発表割当て 第２回　個人発表と討論１（研究テーマ案） 第３回　個人発表と討論２（研究テーマ案） 第４回　個人発表と討論３（研究テーマ案） 第５回　個人発表と討論４（研究テーマ案） 第６回　文献（研究論文・著書）の収集 第７回　文献（研究論文・著書）発表１ 第８回　文献（研究論文・著書）発表２ 第９回　文献（研究論文・著書）発表３ 第１０回　文献（研究論文・著書）発表４ 第１１回　文献（研究論文・著書）発表５ 第１２回　文献（研究論文・著書）発表６ 第１３回　文献（研究論文・著書）発表７ 第１４回　文献（研究論文・著書）発表８ 第１５回　夏季休暇中の課題について
授業外における学習（準備学習の内容）	自分が関心をもつ社会問題についての情報を収集するために，日頃から新聞などに目を通す。
授業方法	ゼミナール形式
評価基準と評価方法	平常点１００％
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習A						
担当教員	中村　博文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	事象の臨床心理学的理解
授業の概要	受講生各自が興味をもつ臨床心理学のテーマについて，内外の文献を取り上げ，発表・討論を行う。 その過程で，臨床心理学的観点に基づいた現象の理解，および研究の基本的な技法と態度を身につけることを目的とする。
到達目標	関心のある心の現象について，臨床心理学的観点からまとめ，発表することができる。 他者の発表を聞いて，コメントをすることができる。 心理学研究における基本的な技法と態度について，説明することができる。 関心のある心の現象について，先行研究を検索し，文献リストを作成できる。
授業計画	#01：オリエンテーション－演習の進め方について #02：心理学論文の形式 #03：文献の種類 #04：文献検索の方法 #05：受講生による発表と討論－1周目の① #06：受講生による発表と討論－1周目の② #07：受講生による発表と討論－1周目の③ #08：受講生による発表と討論－1周目の④ #09：受講生による発表と討論－1周目の⑤ #10：受講生による発表と討論－2周目の① #11：受講生による発表と討論－2周目の② #12：受講生による発表と討論－2周目の③ #13：受講生による発表と討論－2周目の④ #14：受講生による発表と討論－2周目の⑤ #15：まとめ，文献リストの提出
授業外における学習（準備学習の内容）	それぞれ関心がある領域についての文献を検索し，発表資料としてまとめること。
授業方法	演習形式。 毎回，数名ずつ（受講人数によりその数は異なる）発表を行い，それに基づいて全員での討論を行う。発表・討論ともに，積極的に取り組むことを求める。
評価基準と評価方法	発表（40%），学期末提出の文献リスト（20%），および討論への参加態度（40%）により評価を行う。
教科書	指定しない。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	安達　圭一郎						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学演習Aに引き続き、卒業論文の作成に向けて取り組む。
授業の概要	各自が段階を追って、問題・目的、方法、結果の分析法を練り上げていく。毎回複数名の学生が、自己の研究テーマ、問題・目的などを報告し、相互で批評する。
到達目標	研究計画書を作成することができる。
授業計画	第1回　オリエンテーション　概要説明と割り当て 第2回　先行研究のまとめ①　テーマ、問題・目的などの発表① 第3回　先行研究のまとめ②　テーマ、問題・目的などの発表② 第4回　先行研究のまとめ③　テーマ、問題・目的などの発表③ 第5回　先行研究のまとめ④　テーマ、問題・目的などの発表④ 第6回　先行研究のまとめ⑤　テーマ、問題・目的などの発表⑤ 第7回　先行研究のまとめ⑥　テーマ、問題・目的などの発表⑥ 第8回　先行研究のまとめ⑦　テーマ、問題・目的などの発表⑦ 第9回　先行研究のまとめ⑧　テーマ、問題・目的などの発表⑧ 第10回　先行研究のまとめ⑨　テーマ、問題・目的などの発表⑨ 第11回　先行研究のまとめ⑩　テーマ、問題・目的などの発表⑩ 第12回　計画書の作成①　研究課題に合わせた研究法の決定① 第13回　計画書の作成②　研究課題に合わせた研究法の決定② 第14回　計画書の作成③　研究計画書を完成する① 第15回　計画書の作成④　研究計画書を完成する②
授業外における学習（準備学習の内容）	自己のテーマに関連する文献（書籍・論文など）を熟読し、整理して理解しておくこと。
授業方法	ゼミナール形式
評価基準と評価方法	受講態度50%、レポート50%
教科書	
参考書	適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	大和田　攝子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業論文のテーマの決定と研究計画の立案
授業の概要	各自の関心のあるテーマについての文献を講読し、研究の方法や結果の分析について学習する。毎回担当者を決め、各自で選んだ論文の内容を紹介し、受講生全員で議論を深める。最終的には、各自の興味に沿って卒業研究のテーマを絞り込むことを目的とする。
到達目標	1. 各自の関心のあるテーマについての文献を読み、要点をまとめて発表することができる。 2. 各自の関心のあるテーマについての文献を読み、研究の方法や結果の分析について説明することができる。 3. 卒業論文のテーマを決め、研究計画を立てることができる。
授業計画	第1回：文献研究に関する発表とディスカッション（1） 第2回：文献研究に関する発表とディスカッション（2） 第3回：文献研究に関する発表とディスカッション（3） 第4回：文献研究に関する発表とディスカッション（4） 第5回：文献研究に関する発表とディスカッション（5） 第6回：文献研究に関する発表とディスカッション（6） 第7回：文献研究に関する発表とディスカッション（7） 第8回：文献研究に関する発表とディスカッション（8） 第9回：研究計画に関する発表とディスカッション（1） 第10回：研究計画に関する発表とディスカッション（2） 第11回：研究計画に関する発表とディスカッション（3） 第12回：研究計画に関する発表とディスカッション（4） 第13回：研究計画に関する発表とディスカッション（5） 第14回：研究計画に関する発表とディスカッション（6） 第15回：研究計画に関する発表とディスカッション（7）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業は受講生の発表が中心となるので、発表者は担当する文献を熟読し、レジュメを用意すること。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	発表内容や討論への参加（40%）、平常点（60%）などを総合的に評価する。
教科書	
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	久津木　文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	発達心理学及び多文化における子どもの育ち・子育て。
授業の概要	乳幼児期の社会性、コミュニケーション、及び多文化における子どものの発達を中心とした分野の中で興味のもてそうな領域を探し、関連した研究論文を読めるようになることが第一の目的である。ただ論文を読むだけではなく、研究の結果や方法について疑問を持ち、議論できるようになってほしい。
到達目標	発達心理学についての専門的な文献を読んで理解することができるようになり、 研究に必要な手法を知ることができる。ゼミ主体で行うイベントやアクティビティへの参加を通じて発表・ディスカッションを通じて他者に意見を伝えることができるようになる。 最終的に、次年度の卒業論文につながるテーマを見つけることができる。
授業計画	１．夏休み中の課題の提出及びテーマの修正など ２．個人発表とディスカッション１ ３．個人発表とディスカッション２ ４．個人発表とディスカッション３ ５．文献検索・収集１ ６．文献検索・収集２ ７．個人発表とディスカッション（文献）１ ８．個人発表とディスカッション（文献）２ ９．個人発表とディスカッション（文献）３ １０．興味のテーマの発表とディスカッション１ １１．興味のテーマの発表とディスカッション２ １２．興味のテーマの発表とディスカッション３ １３．個人発表とディスカッション（研究計画）１ １４．個人発表とディスカッション（研究計画）２ １５．個人発表とディスカッション（研究計画）３
授業外における学習（準備学習の内容）	毎週、分析作業、発表資料の作成等の作業が準備として必要となるので、授業時間外での学習をきちんと行ってほしい。
授業方法	ゼミナール方式
評価基準と評価方法	授業態度（２０％）、課題への取り組み（８０％）
教科書	適宜紹介する
参考書	適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	黒崎　優美						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究
授業の概要	目的：　「心理学演習Ａ」で決定した研究テーマについて、具体的な研究計画を作成することを目的とします。 概要：　各自の研究テーマについて研究計画を作成し、内容を発表し、全体でディスカッションを行います。
到達目標	卒業研究の研究計画を立て、その内容を明確に伝えることができる。 全体討議を通じて、互いの考えや研究内容への理解を深めることができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　研究計画を立てる(1)　～仮説を立てる～ 第３回　研究計画を立てる(2)　～研究方法を考える～ 第４回　研究計画を立てる(3)　～質問紙の作成など～ 第５回　研究計画を立てる(4)　～発表1回目～ 第６回　研究計画を立てる(5)　～発表2回目～ 第７回　研究計画を立てる(6)　～発表3回目～ 第８回　研究計画を立てる(7)　～方法の改善～ 第９回　研究計画を立てる(8)　～計画書の作成～ 第10回　研究計画を立てる(9)　～計画書の修正～ 第11回　研究結果を出す(1)　～データの入力方法～ 第12回　研究結果を出す(2)　～データの分析方法～ 第13回　研究結果を出す(3)　～分析結果の読み方～ 第14回　研究結果を出す(4)　～分析結果のまとめ方～ 第15回　総括
授業外における学習（準備学習の内容）	ゼミ内での分担作業や発表準備などを行います。 研究テーマに関する文献にもできるだけ多く触れてください。
授業方法	演習、個別指導
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度：50%、発表・提出物：50%
教科書	なし
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	榊原　久直						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究に向けて，自身の研究テーマを決めてそれに応じた研究計画の計画について学ぶ。
授業の概要	心理学演習Aから引き続き，個別のテーマに沿って文献を読むことやディスカッションを行う。そしてその中で，自分のテーマに応じた具体的な研究の手続きについて学び，研究計画の概案を検討していく。
到達目標	1. 自分自身の研究テーマに関連した研究方法とその特徴を説明することができる。 2. 自分自身の研究テーマの具体的なテーマや鍵となる概念を決めることができる。 3. 自分自身の研究テーマに応じた大まかな研究計画を考えることができる。
授業計画	第1回：夏休み中の課題に基づいた発表（１）テーマに関する先行研究の要約と発表 第2回：夏休み中の課題に基づいた発表（２）テーマに関する先行研究の追加検討 第3回：夏休み中の課題に基づいた発表（３）主となるキーワードの決定 第4回：文献を基にした発表とディスカッション（１）キーワード1に関する論文収集 第5回：文献を基にした発表とディスカッション（２）キーワード1に関する論文発表 第6回：文献を基にした発表とディスカッション（３）キーワード2に関する論文収集 第7回：文献を基にした発表とディスカッション（４）キーワード2に関する論文発表 第8回：文献を基にした発表とディスカッション（５）キーワード3に関する論文収集 第9回：文献を基にした発表とディスカッション（６）キーワード3に関する論文発表 第10回：研究計画に関する発表とディスカッション（１）調査方法の収集 第11回：研究計画に関する発表とディスカッション（２）調査計画の仮案作成 第12回：研究計画に関する発表とディスカッション（３）調査計画の仮案発表 第13回：研究計画に関する発表とディスカッション（４）仮案の課題点の検討 第14回：研究計画に関する発表とディスカッション（５）仮案の修正 第15回：研究計画に関する発表とディスカッション（６）研究計画書の執筆開始
授業外における学習（準備学習の内容）	授業は学生の発表がメインである。毎回もしくは隔週で発表の順番が回ってくるので，卒論につながる文献や調査を自ら調べて，理解してまとめることが必要である。 また興味を持った領域の本を読み進めていくことを推奨する。
授業方法	ゼミ形式
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度：50%／発表・提出物（50%）
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	坂本　真佐哉						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究のテーマをしぼり、研究計画を立てる。
授業の概要	カウンセリングや心理療法、コミュニケーションなどに関する様々な理論や技法について広く学習し、さまざまな心理的な問題の解決について理解を深める。学校現場や医療現場で行なわれている臨床実践に関わる文献（特に論文）を中心としてお互いに紹介し、討論をすすめていく形で行う。臨床心理学分野における学術論文の読み方、データの解釈などについて学びながら興味に従ってテーマを絞り、後半は卒業論文のための研究計画を立てる。
到達目標	１．身近な問題について、心理学の概念や用語を使って説明できる。 ２．それらの問題の解決に向けて、必要な情報やデータの種類について説明できる。 ３．卒業研究のテーマおよび研究計画について説明することができる。
授業計画	第１回：学術論文の検索について（１） 第２回：学術論文の検索について（２） 第３回：学術論文の検索について（３） 第４回：学術論文のデータ解釈について（１） 第５回：学術論文のデータ解釈について（２） 第６回：学術論文のデータ解釈について（３） 第７回：学術論文のデータ解釈について（４） 第８回：学術論文のデータ解釈について（５） 第９回：調査／実験の方法論と倫理（１） 第10回：調査／実験の方法論と倫理（２） 第11回：調査／実験の方法論と倫理（３） 第12回：研究計画の立て方 第13回：研究計画に関する討論（１） 第14回：研究計画に関する討論（２） 第15回：研究計画に関する討論（３）
授業外における学習（準備学習の内容）	・文献検索と発表の準備 ・研究計画の作成
授業方法	演習形式とし、すべての授業で討論を行う
評価基準と評価方法	平常点50%（授業中の発言などを参考にし、欠席した場合は減点する）、発表50%
教科書	なし
参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	自らの社会心理学研究の計画作成
授業の概要	自分の関心のあるテーマに関する社会心理学の最近の研究を、雑誌論文（「心理学研究」、「社会心理学研究」、「実験社会心理学研究」など）の中から選び、まとめ、発表する。 卒業論文のテーマを具体化していく。
到達目標	卒業論文の研究計画を立てること。
授業計画	第１回　個人発表と討論　（夏季休暇中の課題の提出） 第２回　文献（先行研究論文）収集 第３回　個人発表と討論１　（研究計画案） 第４回　個人発表と討論２　（研究計画案） 第５回　個人発表と討論３　（研究計画案） 第６回　個人発表と討論４　（研究計画案） 第７回　個人発表と討論５　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第８回　個人発表と討論６　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第９回　個人発表と討論７　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１０回　個人発表と討論８　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１１回　個人発表と討論９　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１２回　個人発表と討論１０（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１３回　個人発表と討論１１（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１４回　研究計画書の作成１ 第１５回　研究計画書の作成２
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の研究計画に関連した情報を幅広く収集するために，日頃から新聞などに目を通す。
授業方法	ゼミナール形式
評価基準と評価方法	平常点１００％
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	中村　博文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究のテーマ決定
授業の概要	心理学演習Aに引き続き，受講生各自が興味をもつ臨床心理学のテーマについて，内外の文献を取り上げ，発表・討論を行うことで，テーマについての理解をさらに深める。 その上で，最終的に卒業論文のテーマを決定し，研究計画を立案することを目的とする。
到達目標	関心のある心の現象について，臨床心理学的観点からまとめ，発表することができる。 他者の発表を聞いて，コメントをすることができる。 卒業研究の研究計画を作成できる。 卒業研究のために必要な文献リストを作成できる。
授業計画	#01：演習の進め方についてのオリエンテーション #02：受講生による発表と討論－1周目の① #03：受講生による発表と討論－1周目の② #04：受講生による発表と討論－1周目の③ #05：1周目の発表についての全体講評とディスカッション #06：受講生による発表と討論－2周目の① #07：受講生による発表と討論－2周目の② #08：受講生による発表と討論－2周目の③ #09：2周目の発表についての全体講評とディスカッション #10：受講生による発表と討論－3周目の① #11：受講生による発表と討論－3周目の② #12：受講生による発表と討論－3周目の③ #13：3周目の発表についての全体講評とディスカッション #14：卒業研究計画書と文献リストの提出① #15：卒業研究計画書と文献リストの提出②
授業外における学習（準備学習の内容）	それぞれ関心がある領域についての文献を検索し，発表資料としてまとめること。
授業方法	演習形式。 毎回，数名ずつ（受講人数によりその数は異なる）発表を行い，それに基づいて全員での討論を行う。発表・討論ともに，積極的に取り組むことを求める。
評価基準と評価方法	発表（40%），学期末提出の研究計画と文献リスト（20%），および討論への参加態度（40%）により評価を行う。
教科書	指定しない。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学概論						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の概要，方法について学ぶ
授業の概要	心理学の幅広い分野を，教科書の内容にそって学習する．これにより，心理学という学問は，心のはたらきを「行動」として捉え，その法則を科学的に定立するものであることが理解できる．また，授業時間の一部を使ってできる，簡単な実験や質問紙調査を行い，自己分析も行う．
到達目標	現代心理学の全体像を知ること。 心理学における実証的アプローチを理解すること。
授業計画	第１回　　科学としての心理学 第２回　　知覚 第３回　　学習 第４回　　記憶 第５回　　認知とスキーマ 第６回　　生理 第７回　　情動と動機づけ 第８回　　パーソナリティ 第９回　　発達 第１０回　言語発達 第１１回　臨床 第１２回　社会 第１３回　現代社会とのかかわり、応用 第１４回　質疑応答、補足 第１５回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の該当部分の教科書を，予習・復習として読む。
授業方法	講義形式（アクティブ・ラーニングを含む）
評価基準と評価方法	平常点３０％，　定期試験７０％
教科書	「自ら実感する心理学」 土肥伊都子（編著）（保育出版社）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習A						
担当教員	久津木・日置・陳・八木						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	簡単な心理実験を実施し、レポートにまとめることができるようになる。複数の実験を実施していくなかで新しい実験を計画し、実施し、結果をまとめることができるようになる。
授業計画	1　オリエンテーションと実験 2　実験の解説とレポートの作成 3　触二点閾の測定 4　触二点閾の測定のレポート作成 5　記憶の系列位置効果 6　記憶の系列位置効果：データの分析・レポート 7　アンケート調査・質問紙実験の計画・実施 8　アンケート調査・質問紙データの分析・レポート 9　ストループ 10 ストループ:データの分析・レポート 11 自由実験：立案・計画 12 自由実験：実施 13 自由実験：データの分析・レポート作成 14 自由実験：レポート作成・発表 15 講評 (2～10の実験の順序はクラスによって異なる)
授業外における学習（準備学習の内容）	自由実験はこれまで行った実験をもとに新たに実験を計画するものであるので、授業で行った実験について考え、調べたいことを考えておくこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	授業への取り組み５０％＆レポート課題の評価５０％
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習A						
担当教員	久津木・日置・陳・八木						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	簡単な心理実験を実施し、レポートにまとめることができるようになる。複数の実験を実施していくなかで新しい実験を計画し、実施し、結果をまとめることができるようになる。
授業計画	1　オリエンテーションと実験 2　実験の解説とレポートの作成 3　触二点閾の測定 4　触二点閾の測定のレポート作成 5　記憶の系列位置効果 6　記憶の系列位置効果：データの分析・レポート 7　アンケート調査・質問紙実験の計画・実施 8　アンケート調査・質問紙データの分析・レポート 9　ストループ 10 ストループ:データの分析・レポート 11 自由実験：立案・計画 12 自由実験：実施 13 自由実験：データの分析・レポート作成 14 自由実験：レポート作成・発表 15 講評 (2～10の実験の順序はクラスによって異なる)
授業外における学習（準備学習の内容）	自由実験はこれまで行った実験をもとに新たに実験を計画するものであるので、授業で行った実験について考え、調べたいことを考えておくこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	授業への取り組み５０％＆レポート課題の評価５０％
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習A						
担当教員	久津木・日置・陳・八木						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	簡単な心理実験を実施し、レポートにまとめることができるようになる。複数の実験を実施していくなかで新しい実験を計画し、実施し、結果をまとめることができるようになる。
授業計画	1　オリエンテーションと実験 2　実験の解説とレポートの作成 3　触二点閾の測定 4　触二点閾の測定のレポート作成 5　記憶の系列位置効果 6　記憶の系列位置効果：データの分析・レポート 7　アンケート調査・質問紙実験の計画・実施 8　アンケート調査・質問紙データの分析・レポート 9　ストループ 10 ストループ:データの分析・レポート 11 自由実験：立案・計画 12 自由実験：実施 13 自由実験：データの分析・レポート作成 14 自由実験：レポート作成・発表 15 講評 (2～10の実験の順序はクラスによって異なる)
授業外における学習（準備学習の内容）	自由実験はこれまで行った実験をもとに新たに実験を計画するものであるので、授業で行った実験について考え、調べたいことを考えておくこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	授業への取り組み５０％＆レポート課題の評価５０％
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・日置・陳・八木						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	簡単な心理実験を実施し、レポートにまとめることができるようになる。複数の実験を実施していくなかで新しい実験を計画し、実施し、結果をまとめることができるようになる。
授業計画	1　両側性転移の実験実施＆レポート作成 2　係留効果の実験実施 3　係留効果のレポート作成 4　要求水準 5　ミューラーリアー錯視 6　ミューラーリアー錯視のレポート 7　反応時間測定 8　Implicit Association test(反応時間を用いた印象評価)１ 9　Implicit Association test(反応時間を用いた印象評価)２ 10　同調行動実験＆レポート 11　パーソナルスペース 12　パーソナルスペース実験＆レポート 13　自由実験：立案・計画 14　自由実験：実施・分析 15　自由実験：レポート作成 (1～12の実験の順序はクラスによって異なる)
授業外における学習（準備学習の内容）	自由実験はこれまで行った実験をもとに新たに実験を計画するものであるので、授業で行った実験について考え、調べたいことを考えておくこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	授業への取り組み５０％＆レポート課題の評価５０％
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・日置・陳・八木						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	簡単な心理実験を実施し、レポートにまとめることができるようになる。複数の実験を実施していくなかで新しい実験を計画し、実施し、結果をまとめることができるようになる。
授業計画	1　両側性転移の実験実施＆レポート作成 2　係留効果の実験実施 3　係留効果のレポート作成 4　要求水準 5　ミューラーリアー錯視 6　ミューラーリアー錯視のレポート 7　反応時間測定 8　Implicit Association test(反応時間を用いた印象評価)１ 9　Implicit Association test(反応時間を用いた印象評価)２ 10　同調行動実験＆レポート 11　パーソナルスペース 12　パーソナルスペース実験＆レポート 13　自由実験：立案・計画 14　自由実験：実施・分析 15　自由実験：レポート作成 (1～12の実験の順序はクラスによって異なる)
授業外における学習（準備学習の内容）	自由実験はこれまで行った実験をもとに新たに実験を計画するものであるので、授業で行った実験について考え、調べたいことを考えておくこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	授業への取り組み５０％＆レポート課題の評価５０％
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B						
担当教員	久津木・日置・陳・八木						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の基礎を実験で体験する
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	簡単な心理実験を実施し、レポートにまとめることができるようになる。複数の実験を実施していくなかで新しい実験を計画し、実施し、結果をまとめることができるようになる。
授業計画	1　両側性転移の実験実施＆レポート作成 2　係留効果の実験実施 3　係留効果のレポート作成 4　要求水準 5　ミューラーリアー錯視 6　ミューラーリアー錯視のレポート 7　反応時間測定 8　Implicit Association test(反応時間を用いた印象評価)１ 9　Implicit Association test(反応時間を用いた印象評価)２ 10　同調行動実験＆レポート 11　パーソナルスペース 12　パーソナルスペース実験＆レポート 13　自由実験：立案・計画 14　自由実験：実施・分析 15　自由実験：レポート作成 (1～12の実験の順序はクラスによって異なる)
授業外における学習（準備学習の内容）	自由実験はこれまで行った実験をもとに新たに実験を計画するものであるので、授業で行った実験について考え、調べたいことを考えておくこと。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	授業への取り組み５０％＆レポート課題の評価５０％
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習I						
担当教員	安原　秀和						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	基礎心理学の用語や概念についての理解を深める
授業の概要	大学院進学を希望する学生を対象とする。 心理学概論書を受講生が自習し、その週の担当者が参加者の前で発表する。 発表の後、教員の作成したテスト問題を解く。
到達目標	大学院試験合格のために必要な水準まで、基礎心理学の知識を得る。
授業計画	第 1回　ガイダンス 第 2回　意識と行動| 担当教員が発表する 第 3回　遺伝と環境 第 4回　学習と記憶 第 5回　視知覚 第 6回　聴知覚 第 7回　触覚 第 8回　思考と言語 第 9回　中間テスト 第10回　脳損傷と高次機能障害 第11回　動機付け 第12回　情動 第13回　パーソナリティ 第14回　社会行動 第15回　個人差 期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	各授業回で少なくとも一人が担当者になって発表を行なうため、発表準備が必要である。 そして、毎週小テストがあるため、テスト対策として教科書を読む必要がある。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	テストの成績(50%) 発表の出来(50%)
教科書	『心理学』 無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 有斐閣 ISBN: 978-4641053694
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習II						
担当教員	黒崎　優美						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	大学院進学対策
授業の概要	目的：　大学院進学や専門職を目指す学生を対象に、より専門性の高い臨床心理学的知識の習得を目指します。 概要：　推薦図書の購読と大学院入試の過去問題(臨床心理学領域)を中心に取り組み、発表を通して各自の理解を深め全体での共有を図ります。
到達目標	臨床心理学系大学院入試に必要な専門知識を習得し、その内容を整理して伝えることができる。 得られた知識を生かして、臨床や研究の方向性を明確化し、伝えることができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション(心理系大学院入試の傾向と対策) 第２回　臨床心理学の基礎(1)歴史的背景 第３回　臨床心理学の基礎(2)人格理論 第４回　臨床心理学の基礎(3)心理障害とその治療 第５回　臨床心理学の基礎(4)研究方法と倫理規定 第６回　臨床心理学の基礎(5)他領域との連携 第７回　臨床心理査定(1)査定方法の種類と検査法の概要 第８回　臨床心理査定(2)検査法による臨床心理査定 第９回　臨床心理援助(1)導入と枠組み 第10回　臨床心理援助(2)援助方法の種類と概要 第11回　臨床心理援助(3)対人関係療法の理論と実際 第12回　臨床心理援助(4)グリーフケアの理論と実際 第13回　臨床心理援助(5)家族療法・ブリーフセラピーの理論と実際 第14回　臨床心理援助(6)精神分析的心理療法の理論と実際 第15回　臨床心理援助(7)遊戯療法・発達臨床の理論と実際
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：　指定されたテーマについて、推薦図書の内容を中心にまとめ、資料を作成してください。 授業後学習：　指定されたテーマに関する大学院入試過去問題への解答を作成してください。
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点50%、課題・提出物50%
教科書	
参考書	授業内で指定します

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストA						
担当教員	大和田　攝子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。
授業の概要	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。
到達目標	1. 各検査の理論的背景や目的、実施方法について説明することができる。 2. 授業で取り上げた心理検査について、手順通りに検査を実施することができる。 3. 授業で取り上げた心理検査について、結果を整理し、レポートとしてまとめることができる。
授業計画	第1回：概論（1）－心理アセスメントとは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法・結果の処理 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）結果の処理 第10回：Y-G性格検査 第11回：MMPI（1）解説・実施法 第12回：MMPI（2）結果の処理 第13回：内田クレペリン精神作業検査 第14回：SDS職業適性診断テスト 第15回：レポート返却、講評
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらないこともあるので、次の授業までに作業を終わらせておくこと。
授業方法	講義（実習的内容を含む）
評価基準と評価方法	レポート（40%）と平常点（60%）を総合的に評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	『心理テスト法入門 第4版』松原達哉（編著）日本文化科学社　ISBN4-8210-6360-3

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストA						
担当教員	大和田　攝子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。
授業の概要	心理アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。
到達目標	1. 各検査の理論的背景や目的、実施方法について説明することができる。 2. 授業で取り上げた心理検査について、手順通りに検査を実施することができる。 3. 授業で取り上げた心理検査について、結果を整理し、レポートとしてまとめることができる。
授業計画	第1回：概論（1）－心理アセスメントとは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：田中ビネー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：田中ビネー式知能検査（2）実施法 第5回：田中ビネー式知能検査（3）実施法・結果の処理 第6回：田中ビネー式知能検査（4）結果の処理 第7回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第8回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第9回：ウェクスラー式知能検査（3）結果の処理 第10回：Y-G性格検査 第11回：MMPI（1）解説・実施法 第12回：MMPI（2）結果の処理 第13回：内田クレペリン精神作業検査 第14回：SDS職業適性診断テスト 第15回：レポート返却、講評
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらないこともあるので、次の授業までに作業を終わらせておくこと。
授業方法	講義（実習的内容を含む）
評価基準と評価方法	レポート（40%）と平常点（60%）を総合的に評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	『心理テスト法入門 第4版』松原達哉（編著）日本文化科学社　ISBN4-8210-6360-3

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストB						
担当教員	中村　博文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	投映法の学習
授業の概要	「投映法」といわれる一連の心理検査法について学習する。 具体的には，描画法，文章完成法（SCT），PFスタディ，ロールシャッハ・テスト，TAT（主題統覚検査）などについて，それらの特徴，実施法，整理法，解釈法といったことを，体験を通じて学ぶ。
到達目標	投映法について，説明できる。 代表的な投映法を挙げ，それらの特徴を述べられる。 様々な投映法心理検査を被検者として体験し，その結果に基づいて自己分析を行い，所見を作成できる。
授業計画	#01：オリエンテーション－投映法とは？ #02：描画法①－バウム・テスト #03：描画法②－人物画テスト #04：描画法③－S-HTP #05：描画法④－風景構成法 #06：SCT①－理論と施行法 #07：SCT②－結果の整理と解釈 #08：PFスタディ①－理論と施行法 #09：PFスタディ②－結果の整理(1)　スコアリング #10：PFスタディ③－結果の整理(2)　スコアリング／各種指標の算出 #11：PFスタディ④－結果の整理(3)　各種指標の算出 #12：PFスタディ⑤－結果の解釈 #13：ロールシャッハ・テスト #14：TAT（主題統覚検査） #15：まとめ，レポート提出 ※授業進度によっては，検査種が増減する可能性がある。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間だけでは検査の実施，および整理が終わらない場合もある。指示にしたがって，次の授業までに課題を終えておくこと。 授業各回で扱う投映法心理検査について，配付資料に記載されている参考文献を読み，理解を深めることを求める。
授業方法	講義（実習的内容を含む）。 投映法心理検査を体験し，それを整理，分析，解釈する。 毎回授業の最後に，小レポート（問いに対する回答，質問，感想）の提出を求める。
評価基準と評価方法	平常点（30%），小レポート（30%），および検査実習レポート（40%）により評価する。
教科書	指定しない。毎回の授業で，プリントを配付する。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストB						
担当教員	中村　博文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	投映法の学習
授業の概要	「投映法」といわれる一連の心理検査法について学習する。 具体的には，描画法，文章完成法（SCT），PFスタディ，ロールシャッハ・テスト，TAT（主題統覚検査）などについて，それらの特徴，実施法，整理法，解釈法といったことを，体験を通じて学ぶ。
到達目標	投映法について，説明できる。 代表的な投映法を挙げ，それらの特徴を述べられる。 様々な投映法心理検査を被検者として体験し，その結果に基づいて自己分析を行い，所見を作成できる。
授業計画	#01：オリエンテーション－投映法とは？ #02：描画法①－バウム・テスト #03：描画法②－人物画テスト #04：描画法③－S-HTP #05：描画法④－風景構成法 #06：SCT①－理論と施行法 #07：SCT②－結果の整理と解釈 #08：PFスタディ①－理論と施行法 #09：PFスタディ②－結果の整理(1)　スコアリング #10：PFスタディ③－結果の整理(2)　スコアリング／各種指標の算出 #11：PFスタディ④－結果の整理(3)　各種指標の算出 #12：PFスタディ⑤－結果の解釈 #13：ロールシャッハ・テスト #14：TAT（主題統覚検査） #15：まとめ，レポート提出 ※授業進度によっては，検査種が増減する可能性がある。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間だけでは検査の実施，および整理が終わらない場合もある。指示にしたがって，次の授業までに課題を終えておくこと。 授業各回で扱う投映法心理検査について，配付資料に記載されている参考文献を読み，理解を深めることを求める。
授業方法	講義（実習的内容を含む）。 投映法心理検査を体験し，それを整理，分析，解釈する。 毎回授業の最後に，小レポート（問いに対する回答，質問，感想）の提出を求める。
評価基準と評価方法	平常点（30%），小レポート（30%），および検査実習レポート（40%）により評価する。
教科書	指定しない。毎回の授業で，プリントを配付する。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	統計基礎論						
担当教員	野口　智草						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	統計を「使う」
授業の概要	心理学では、実験や調査によってデータを収集し、それを統計的に分析することで意味のある結果を見出し、そこから人間の心のありようを推測します。従って、心理学を学ぶ上で統計学の知識は欠かせないものです。ただし、必ずしも学問としての「統計学」を隅々まで理解する必要はありません。本講義では極力数式による説明をせずに、統計学的な知識を用いてデータを解釈する、そのエッセンスを理解できるよう進めていきます。
到達目標	統計学的知識を用いてデータを解釈できるようになります。様々なタイプのデータがあることを理解し、そうしたデータの意味や、そのデータから推測できることを学ぶことで、心理学的なデータを分析する方法を習得します。
授業計画	第1回　統計を学ぶ目的 第2回　変数とデータ 第3回　度数分布・代表値 第4回　標準偏差・正規分布 第5回　不偏分散 第6回　正規分布と推定・相関 第7回　相関の注意点 第8回　前半まとめ・中間試験 第9回　推定誤差 第10回　標準誤差・t値 第11回　帰無仮説と対立仮説・p値 第12回　自由度・2種類のエラー 第13回　対応なしt検定・分散分析 第14回　二要因分散分析 第15回　後半まとめ・期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	必要に応じて図書館にある本などで統計について勉強してください。講義で扱った内容を別の形で説明しているものもあります。そうしたものに目を通すことで講義の内容に関してさらに理解が進みます。また、講義の内容を復習し、疑問が出てきたら次の回で質問し、しっかりと理解することが大切です。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点 30%　中間テスト 30%　期末テスト 40%
教科書	なし
参考書	「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」吉田寿夫（著）　北大路書房

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	統計基礎論						
担当教員	野口　智草						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	統計を「使う」
授業の概要	心理学では、実験や調査によってデータを収集し、それを統計的に分析することで意味のある結果を見出し、そこから人間の心のありようを推測します。従って、心理学を学ぶ上で統計学の知識は欠かせないものです。ただし、必ずしも学問としての「統計学」を隅々まで理解する必要はありません。本講義では極力数式による説明をせずに、統計学的な知識を用いてデータを解釈する、そのエッセンスを理解できるよう進めていきます。
到達目標	統計学的知識を用いてデータを解釈できるようになります。様々なタイプのデータがあることを理解し、そうしたデータの意味や、そのデータから推測できることを学ぶことで、心理学的なデータを分析する方法を習得します。
授業計画	第1回　統計を学ぶ目的 第2回　変数とデータ 第3回　度数分布・代表値 第4回　標準偏差・正規分布 第5回　不偏分散 第6回　正規分布と推定・相関 第7回　相関の注意点 第8回　前半まとめ・中間試験 第9回　推定誤差 第10回　標準誤差・t値 第11回　帰無仮説と対立仮説・p値 第12回　自由度・2種類のエラー 第13回　対応なしt検定・分散分析 第14回　二要因分散分析 第15回　後半まとめ・期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	必要に応じて図書館にある本などで統計について勉強してください。講義で扱った内容を別の形で説明しているものもあります。そうしたものに目を通すことで講義の内容に関してさらに理解が進みます。また、講義の内容を復習し、疑問が出てきたら次の回で質問し、しっかりと理解することが大切です。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点 30%　中間テスト 30%　期末テスト 40%
教科書	なし
参考書	「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」吉田寿夫（著）　北大路書房

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理の仕事						
担当教員	単位認定者：大和田　攝子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	職業としての心理学
授業の概要	心理学の専門性を活かして様々な現場で活躍する職業人に、オムニバス形式で講義をお願いする。
到達目標	社会の中の様々な領域で、心理学の知識がどのように活かされているのかを具体的に知ることができる。 また、そのことを通じて、自分自身の将来像を描けるようになる。
授業計画	#01 ： イントロダクション／大学院でプロフェッショナルを目指すということ #02 ： ウェディングプランナーの仕事に心理の知識をどう活かせるか（ゲスト・スピーカー招聘予定） #03 ： 大学病院での心理の仕事（ゲスト・スピーカー招聘予定） #04 ： 精神科病院／復職支援での心理の仕事（ゲスト・スピーカー招聘予定） #05 ： アニマルセラピストという仕事（ゲスト・スピーカー招聘予定） #06 ： スクールカウンセラーの仕事（ゲスト・スピーカー招聘予定） #07 ： 緩和ケアにおける心理の仕事（ゲスト・スピーカー招聘予定） #08 ： 教育センターでの心理の仕事（ゲスト・スピーカー招聘予定） #09 ： 小学校でのスクールソーシャルワーカーの仕事（ゲスト・スピーカー招聘予定） #10 ： 障害者支援施設における心理の仕事（ゲスト・スピーカー招聘予定） #11 ： 児童家庭支援センターでの心理の仕事（ゲスト・スピーカー招聘予定） #12 ： 銀行員の仕事に心理の知識をどう活かせるか（ゲスト・スピーカー招聘予定） #13 ： 医療事務で心理の知識をどう活かせるか（ゲスト・スピーカー招聘予定） #14 ： 県警での被害者支援カウンセラーの仕事（ゲスト・スピーカー招聘予定） #15 ： 総括
授業外における学習（準備学習の内容）	各回の話に関連する文献を検索し、読むことで、それぞれの領域についての理解を深めることを求める。
授業方法	オムニバスの講義形式
評価基準と評価方法	平常点（50%）、ならびに毎回の小レポート（50%）により評価する。
教科書	指定しない。
参考書	指定しない。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法I						
担当教員	中村　博文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	精神分析と精神分析的心理療法
授業の概要	精神分析とは，Freud，S.により創始された心理学理論，かつその理論に基づく心理学的援助技法の体系である。また，精神分析の考え方や技法を基盤として行われる心理療法を，精神分析的心理療法という。 この授業では，精神分析の基本的な考え方を学ぶとともに，精神分析的心理療法の実際について学習する。
到達目標	Freudの精神分析の考え方や概念について，4つの基本的な観点から説明することができる。 Freud以降の精神分析の発展について，主な学派とそれらの特徴を解説することができる。 精神分析，精神分析的心理療法の技法について，専門用語を用いて説明することができる。 精神分析に関わる概念や理論の問題点を取り上げ，反論を述べることができる。
授業計画	#01：オリエンテーション－精神分析・精神分析的心理療法とは？ #02：精神分析の基本的観点①：局所論／構造論 #03：精神分析の基本的観点②：力動論 #04：精神分析の基本的観点③：経済論 #05：精神分析の基本的観点④：発達論 #06：精神分析の技法①：催眠から自由連想へ #07：精神分析の技法②：転移，逆転移，中立性 #08：精神分析の発展①：アドラーとユング #09：精神分析の発展②：精神分析の学派(1)－自我心理学・対象関係論 #10：精神分析の発展③：精神分析の学派(2)－自己心理学・対人関係論 #11：精神分析の発展④：対象の拡大 #12：精神分析と精神分析的心理療法①：精神分析の基礎にあるもの #13：精神分析と精神分析的心理療法②：精神分析の新しい流れ #14：まとめ，試験 #15：試験解題
授業外における学習（準備学習の内容）	授業各回のテーマについて，配付資料に記載されている参考文献を読み，理解を深めることを求める。
授業方法	講義形式。 毎回授業の最後に，小レポート（問いに対する回答，質問，感想）の提出を求める。
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%），および期末試験（86%）により評価する。
教科書	指定しない。毎回の授業で，プリントを配付する。
参考書	小此木啓吾・馬場謙一（編）　1977　フロイト精神分析入門　有斐閣新書　ISBN：978-4641087101 その他，適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法II						
担当教員	榊原　久直						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもの心理療法と子どもが呈する様々な病理を学ぶことを通して，子どもの心の理解とその援助について考える。
授業の概要	乳幼児期から児童期までの間に子どもが呈する様々な心理症状についての知識を得る。また，子どもにとって身近な他者である家族の心理について同時に考えることで，子どもの援助を多面的な視点から学ぶ。
到達目標	1.乳幼児期から児童期に至る子どもの呈する心理症状や障碍（がい）についての知識を得る。 2.子どもやその家族の心的援助について様々な立場からできることを考える視点を持つ。
授業計画	第1回：オリエンテーション　～子どもの臨床とは～ 第2回：子どもの心や症状について考えるための基本的な理解 第3回：プレイセラピーとは 第4回：ケースから学ぶ～実際の子どものセラピーの様子について文献記録を読み解く～ 第5回：乳児期に見られる症状とその援助①反応の弱い子，過敏な子，育てやすい子 第6回：乳児期に見られる症状とその援助②発達の早い子，ゆっくりな子 第7回：幼児期に見られる症状とその援助①夜驚症，チック障害 第8回：幼児期に見られる症状とその援助②緘黙症，強迫性障害 第9回：体験から学ぶ～①乳幼児期のセラピーの技法を体験してみよう～ 第10回：アタッチメント理論を基にした子どもの理解と親への援助 第11回：親子の関係性そのものの理解と援助の技法を学ぶ～セラプレイとは～ 第12回：体験から学ぶ～②セラプレイ的遊びを体験してみよう～ 第13回：児童期に見られる症状とその援助①不登校 第14回：児童期に見られる症状とその援助②発達障害 第15回：総まとめと試験　～仮想事例の検討～
授業外における学習（準備学習の内容）	日常の中で，子どもの何気ない言動を“子どもの視点に立って”理解しようとするようにすること。また子どもや家族に関するテレビや小説，映画などを“心の動き”という観点から観ること。
授業方法	基本的に講義を中心とした比較的専門性の高い内容とする。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視聴覚的な資料を用いることや，ロールプレイなどの体験学習を用いる。
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度：30%／中間レポート（30%）／期末試験（40%）
教科書	特に指定せず，授業内にて資料を配布する。
参考書	鵜飼奈津子（2010）子どもの精神分析的心理療法の基本．誠信書房． ISBN：978-4-414-40060-1 木部則雄（2006）こどもの精神分析　クライン派・対象関係論からのアプローチ． 岩崎学術出版社　　ISBN：978-4753306091

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法III						
担当教員	坂本　真佐哉						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの理論と実際について学ぶ。
授業の概要	家族システムやコミュニケーション・システムの変化をめざした心理療法をはじめ、解決構築など近年の社会構成主義的心理療法の分野について実際の事例を交えながら講義を行う。心理療法における「問題」の捉え方とその解決に関する考え方などについて、システム論や社会構成主義の観点から学び、さまざまな角度から物事をとらえる視点や考え方を養う。
到達目標	１．家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの主要な理論と用語について説明することができる。 ２．身近な心の問題について、家族療法やブリーフセラピーの概念や用語を用いて解説し、解決策について提案することができる。
授業計画	第１回：心理療法における「問題」の捉え方 第２回：さまざまな心理援助の技法と家族療法、ブリーフセラピー 第３回：家族療法の理論と実際（１）家族療法とシステム論 第４回：家族療法の理論と実際（２）家族療法の実際 第５回：ブリーフセラピー概論 第６回：ミルトン・エリクソンの心理療法 第７回：MRIモデルの理論と技法（１）変化の理論 第８回：MRIモデルの理論と技法（２）コミュニケーション理論 第９回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（１）基本的な考え方と特徴 第１０回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（２）解決構築とは？ 第１１回：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（３）質問技法の実際 第１２回：ナラティヴ・セラピー（１）社会構成主義の理論 第１３回：ナラティヴ・セラピー（２）会話の実際 第１４回：ナラティヴ・セラピー（３）事例を中心に 第１５回：試験と総括
授業外における学習（準備学習の内容）	家族療法およびブリーフセラピーに関する専門書を読むこと。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点20%（欠席は減点する）、中間テスト40%、期末テスト40%
教科書	
参考書	遊佐安一郎著「家族療法入門―システムズ・アプローチの理論と実際」星和書店 坂本真佐哉、和田憲明、東　豊著「心理療法テクニックのススメ」金子書房

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法IV						
担当教員	安達　圭一郎						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	対人関係療法（IPT）の技法的特徴や経過について概説する。
授業の概要	西洋諸国では、認知行動療法と双璧をなすエビデンスベイストな（科学的根拠のある）心理療法と言われている。本講義では、こうしたIPTの治療技法、治療経過、必要とされる治療者の態度などを概説し、一部ロールプレイも交えながら、学生のIPT理解を促したい。
到達目標	・IPTの特徴を具体的に説明することができる。 ・IPT治療者に必要な態度や技法を説明できる。 ・4つの問題領域ごとに、治療の流れを説明できる。
授業計画	第1回　オリエンテーション　講義概要と受講要件の確認 第2回　IPTとは①　概観と特徴 第3回　IPTとは②　目標と適用 第4回　IPTとは③　科学的根拠について 第5回　IPTとは④　治療者の役割と患者の役割 第6回　IPTの治療プロセス①　初期①（初期面接の進め方） 第7回　IPTの治療プロセス②　初期②（情報の集約と見立て） 第8回　IPTの治療プロセス③　中期①（問題領域「悲哀」「対人関係上の役割をめぐる不和」） 第9回　IPTの治療プロセス④　中期②（問題領域「役割の変化」「対人関係の欠如」） 第10回　IPTの治療プロセス⑤　終結期 第11回　IPTによる治療事例①　うつ病患者に対する自験例①（30代女性「役割の変化」事例） 第12回　IPTによる治療事例②　うつ病患者に対する自験例②（40代男性「対人関係上の役割をめぐる不和」事例） 第13回　IPT技法のまとめ　IPTで用いられる戦略 第14回　IPT技法のまとめ　DVDの視聴 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	講義前にはテキストの該当箇所を読んでおくこと。
授業方法	講義方式と一部演習。
評価基準と評価方法	受講態度30%、期末試験70%
教科書	水島広子「臨床家のための対人関係療法入門ガイド」創元社
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	ジェンダーの心理学						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	ジェンダー（男女の社会的役割）についての心理学を学ぶ
授業の概要	男女に対する固定観念が，ジェンダー・ステレオタイプである。本講義では、ジェンダー・ステレオタイプがなぜ作られ、それがどのように維持されるのか、あるいはいかに変容するかを社会心理学の知見に基づき学習する。
到達目標	個人の心の中にジェンダーが浸透していることに気づくこと。 その心の中のジェンダーによりステレオタイプが生まれ，ジェンダー社会を維持するしくみを理解すること。 ジェンダー・ステレオタイプから自由に生きるための方法を習得すること。
授業計画	第１回　ジェンダーへの心理学的アプローチ 第２回　セックスとジェンダー 第３回　ジェンダー・ステレオタイプの形成と維持 第４回　ジェンダー・スキーマ 第５回　集団とジェンダー・ステレオタイプ 第６回　性別分業社会とジェンダー・ステレオタイプ 第７回　ジェンダーの社会化（１）子ども自身の認知発達 第８回　ジェンダーの社会化（２）子どもを取り巻く環境 第９回　夫婦，男女間のコミュニケーション 第１０回　ジェンダーによる心身への影響-女性の場合-（ゲスト・スピーカー招聘予定） 第１１回　ジェンダーによる心身への影響-男性の場合- 第１２回　心理学の学問におけるジェンダー・ステレオタイプ 第１３回　ジェンダー・ステレオタイプの軽減 第１４回　前期授業の質疑応答 第１５回　前期試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に，教科書を読む。 授業で使用したスライドを各自で印刷して，復習する。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点３０％，定期試験７０％
教科書	「ジェンダーの心理学」 青野篤子・森永康子・土肥伊都子（著）（ミネルヴァ書房）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	情報社会の心理学						
担当教員	村上　幸史						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	情報社会の心理学
授業の概要	日常生活でわれわれは多くの情報に触れています。このように目や耳にする情報は、どのように伝わり、どのように受け取られるでしょうか。この講義ではその心理的特徴のうち、特に対人関係や信頼性の側面に注目して、いくつかの事例を通して解説をしていきます。
到達目標	情報の伝達や受け取り方について、自分なりに解釈できるようになること。
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　情報の理論 第3回　うわさ（1）うわさの理論 第4回　うわさ（2）うわさと風評被害 第5回　流行 第6回　ネットワーク（1）「ともだち」より 第7回　ネットワーク（2）6次のへだたり 第8回　SNSと対人関係（1）友人の希薄化理論と選択的関係 第9回　SNSと対人関係（2）返報性と社会的交換 第10回　スケープゴーティング（1）攻撃行動と非難 第11回　スケープゴーティング（2）JR脱線事故と感染症の報道から 第12回　スケープゴーティング（3）不謹慎とは 第13回　予言とその心理（1）なぜ当たるのか、占いを例として 第14回　予言とその心理（2）言霊の心理 第15回　まとめと試験 ※進行内容により、回数等を調整することがあります。
授業外における学習（準備学習の内容）	テーマあるいは講義の最後に、話したテーマの要点を配布しますので、復習するようにしておいてください。 この講義では覚えておくべき理論が大量にあるわけではないですが、その代わりに現実のニュースなどにも積極的に関心を持って触れておくこと（新聞やネットニュースなどを読むようにすることが望ましい）。講義内で取り上げます。
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	レポート（1回）、講義内での試験（1回）、各40%、講義中の課題20%
教科書	
参考書	「スケープゴーティング」　釘原直樹（編）　有斐閣

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	児童期の臨床心理学						
担当教員	榊原　久直						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	児童期の子どもの心についての理解の仕方を育むとともに，児童期における臨床心理学的なテーマや様々な困難さ・症状を学ぶ。
授業の概要	主に児童期を中心とした子どもの発達段階における心的状態やその変化についての知識を学ぶ。またその中で生じる様々な困難さを，子どもの視点に立って理解するという姿勢を養っていく。
到達目標	1. 児童期の子どもの心身の発達やそれに伴う心的状態の変化についての知識を得る。 2. 児童期の子どもの呈する心理症状や障碍（がい）についての知識を得る。 3. 映像や文学など様々な物を子どもの心的表現として考えるという視点を持つ。
授業計画	第1回：オリエンテーション　～子どもの心を理解するって？～ 第2回：子どもの心の探索　～私の中の子どもを見つめる～ 第3回：発達段階としての児童期①　～児童期ってなんだろう？～ 第4回：発達段階としての児童期②　～児童期の情緒発達～ 第5回：発達段階としての児童期③　～検査や研究法の視点から～ 第6回：幼児期と児童期との対比から見る児童期の心　～となりのトトロ～ 第7回：“発達障害”ってなんだろう①～“外”から見る自閉症～ 第8回：“発達障害”ってなんだろう②～“内”から見る自閉症～ 第9回：児童期の子どもを取り巻く環境①　～社会，学校～ 第10回：児童期の子どもを取り巻く環境②　～友人関係，家族関係～ 第11回：児童期における心的発達と危機 第12回：児童期の終りと思春期①　～千と千尋の神隠し～ 第13回：児童期の終りと思春期②　～魔女の宅急便～ 第14回：内なる子ども性と自己愛　～アナと雪の女王～ 第15回：振り返りと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	日常の中で，子どもの何気ない言動を“子どもの視点に立って”理解しようとするようにすること。また子どもや家族に関するテレビや小説，映画などを“心の動き”や“子どもを取り巻く環境との関係性”という観点から観ること。
授業方法	基本的には講義形式を用いる。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視聴覚的な資料を用いることや，ロールプレイなどの体験学習を用いる。
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度：30%／中間レポート（30%）／期末試験（40%）
教科書	特に指定せず，授業内にて資料を配布する。
参考書	山中康裕（1978）少年期の心　精神療法を通してみた影. 中央公論新社.　ISBN：978-4121005151 岩宮恵子（1997）生きにくい子どもたち―カウンセリング日誌から（今ここに生きる子ども）. 岩波書店.　ISBN：978-4000260626

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	人格心理学						
担当教員	日置　孝一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	パーソナリティに関する諸理論および研究の紹介
授業の概要	本講義ではヒトを理解するための基本的な枠組みとして，人格（パーソナリティ）に関する研究やその方法論を概括し，自分も含めたヒトについて，様々な角度から理解を深めることを目的とする．
到達目標	パーソナリティ形成に関わる心理モデルについて理解します．また，各種測定法・実験計画法など心理学の基礎的な知識を学びます．自身で研究計画を立てその解法を導きだせるようになることを期待します．
授業計画	第１回目：人格（パーソナリティ）心理学とは 第２回目：定義 第３回目：研究史 第４回目：諸理論（１） 第５回目：諸理論（２） 第６回目：パーソナリティと発達（１） 第７回目：パーソナリティと発達（２） 第８回目：パーソナリティと対人関係 第９回目：パーソナリティと文化 第10回目：パーソナリティの測定法（１） 第11回目：パーソナリティの測定法（２） 第12回目：実験（研究）計画法（１） 第13回目：実験（研究）計画法（２） 第14回目：試験及び復習（試験は90分） 第15回目：まとめ #進度は適宜調整するため，内容が前後することもあります．
授業外における学習（準備学習の内容）	授業用資料をweb上にアップします．原則，配布は行わないため，授業前にダウンロードしておいてください．URLはhttp://www.b.kobe-u.ac.jp/~hioki/shoin/です．パスワードは初回に紹介します．
授業方法	講義
評価基準と評価方法	試験のみ
教科書	なし
参考書	講義中に紹介

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	成人期・老年期の臨床心理学						
担当教員	中村　博文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	成人期・老年期の心理的課題と危機
授業の概要	本講義では，成人期および老年期における心理的な発達や発達課題，またこれらの時期に生じやすい問題や危機について概観する。その上で，それぞれの時期における臨床心理学的な援助について検討する。
到達目標	成人期・老年期の心理学的特徴について，説明できる。 成人期・老年期に生じやすい心理学的問題を複数取り上げ，それらについて説明できる。 自らのライフサイクルにおける成人期・老年期の意味について推測・考察し，論述できる。
授業計画	#01：オリエンテーション－生涯発達論的視座から見た成人期と老年期 #02：成人期の心理学的特徴と発達課題 #03：結婚・妊娠・出産 #04：子育て #05：職場における問題（1）：ストレスとメンタルヘルス #06：職場における問題（2）：うつ病と自殺 #07：老親の介護における心理的問題 #08：中年期危機 #09：老年期の心理学的特徴と発達課題 #10：認知症 #11：老年期うつと妄想 #12：老年期における喪失体験 #13：老年期における死の問題 #14：まとめ，試験 #15：試験解題
授業外における学習（準備学習の内容）	授業各回のテーマについて，配付資料に記載されている参考文献を読み，理解を深めることを求める。
授業方法	講義形式。 毎回授業の最後に，小レポート（問いに対する回答，質問，感想）の提出を求める。
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%），および期末試験（86%）により行う。
教科書	指定しない。毎回の授業で，プリントを配付する。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	生と死の心理学						
担当教員	大和田　攝子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	生と死を学ぶ。
授業の概要	病院やコミュニティなど臨床の場における生と死をめぐる問題について概観し、そこで必要とされる援助について考える。具体的には、死別後の悲嘆、外傷的死別（災害、犯罪・事故、自殺など）、グリーフカウンセリング、末期患者と家族の心理、病名告知、ホスピス緩和ケアなどを取り上げ、さまざまな観点から死についての理解を深める。また、臓器移植など生命倫理にも触れ、現代の死の諸相について広く学ぶ。講義の他に、ロールプレイなどの実習やビデオ教材も適宜取り入れる。
到達目標	1. 生と死をめぐる問題について心理学的に考察し、説明することができる。 2. 誰もが避けることのできない死について心理学的に学ぶことで、実際に身近に起こったときどのようにすればよいか考えることができる。
授業計画	第1回：ストレス源としての死別体験 第2回：喪失と悲嘆に関する諸理論 第3回：通常の悲嘆反応と複雑な悲嘆反応 第4回：悲嘆の複雑化と関連要因 第5回：さまざまな喪失(1)自然災害 ～子どもへの影響 第6回：さまざまな喪失(2)大規模事故・犯罪 ～二次被害 第7回：さまざまな喪失(3)自殺・ペットロス ～公認されない悲嘆 第8回：ケアを行う際の基本的姿勢 第9回：支援の方法 ～グリーフカウンセリング・複雑性悲嘆治療 第10回：ロールプレイ（実習） 第11回：病名の告知 第12回：ホスピス緩和ケアとQOL 第13回：末期患者の心理と家族のケア 第14回：生命倫理 ～臓器移植 第15回：質疑応答と試験
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書や参考書を事前に読んでおくことが望ましい。
授業方法	講義（実習も含む）
評価基準と評価方法	試験（60%）や授業中に出す課題の提出（20%）、平常点（20%）などを総合的に評価する。
教科書	『死を学ぶ』柏木哲夫（著）有斐閣　ISBN4-641-07582-4
参考書	『「悲しみ」の後遺症をケアする―グリーフケア・トラウマケア入門』小西聖子・白井明美（著）角川学芸出版 ISBN978-4-04-651613-8 『悲嘆学入門―死別の悲しみを学ぶ』坂口幸弘（著）昭和堂　ISBN978-4-8122-1015-4

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	青年期の臨床心理学						
担当教員	黒崎　優美						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	青年期の課題に対する臨床心理学的理解
授業の概要	目的：　青年期にかかわるさまざまな問題について、臨床心理学的接近法に基づき理解していくことを目的とします。 概要：　就労や恋愛など青年期にかかわる課題について、臨床心理学的理論に基づく理解や接近の方法を紹介し、身近な素材や事例を用いて理解を深めます。ワークや発表を通じて応用力を高め、その成果を共有します。
到達目標	青年期にかかわる諸問題について理解を深め、臨床心理学的な観点から説明することができる。 授業で得られた理解を、自分自身や日常生活上の諸問題に応用することができる、また、それを言語化し他者と共有することができる。
授業計画	第１回　大人？子ども？　～生涯発達における青年期～ 第２回　家を出たい？出たくない？　～青年期の親子関係～ 第３回　働くとは？　～青年期の就活・就職(1)～ 第４回　就活不安の正体　～青年期の就活・就職(2)～ 第５回　楽しく働くとは？　～青年期の就活・就職(3)～ 第６回　働かないとダメですか？　～NEET・引きこもりの心理(1)～ 第７回　働かない人の意義　～NEET・引きこもりの心理(2)～ 第８回　愛するとは？　～青年期の恋愛・結婚(1)～ 第９回　結婚したい？したくない？　～青年期の恋愛・結婚(2)～ 第10回　愛する病　～DV・ストーカーの心理～ 第11回　うつ・自殺　～青年期の精神疾患(1)～ 第12回　統合失調症　～青年期の精神疾患(2)～ 第13回　心理療法という繋がり　～青年期の精神疾患(3)～ 第14回　まとめと試験 第15回　課題発表
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：　青年期の課題や臨床心理学に関する本を読み自分なりの理解や疑問をもって授業に臨んでください 。 授業後学習：　授業内で紹介する参考書を読みさらに理解を深め新たな疑問をみつけてください。身近な素材を授業で得た理解と結びつけ「素材発見カード」にまとめ提出してください(任意、随時受付)。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	平常点(授業レポート、素材発見カード)　60% 期末試験　20% 課題(授業内ワークのまとめ、もしくは課題発表)　20%
教科書	プリントを配布します
参考書	授業内で紹介します

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	生理心理学						
担当教員	中尾　美月						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	ココロとカラダの関係を科学する。
授業の概要	心はどこにあるのだろうか。それは脳だろうか。緊張すると心臓がどきどきしたり，胃が痛くなったりするということは，心臓や胃にあるのだろうか。それとも身体のどこにも存在しないのだろうか。 この授業では，心と身体の関係について，古典的ともいえる知見から，最新の脳科学研究の成果に至るまで，数多くの興味深いトピックを紹介する。さらに，心のありかについて自らの意見をまとめることで，人に対するより深い理解と関心が持てるようになることを目指す。
到達目標	心と身体の関係について基礎的な知識が習得できる。 ものごとを科学的に理解し考える力が身につく。
授業計画	第 1講　生理心理学とは 第 2講　脳　～あなたは右脳タイプ？左脳タイプ？～ 第 3講　視覚　～なぜものが見えるのか～ 第 4講　知覚統合　～青い食べ物でダイエット？～ 第 5講　顔認識　～なぜアヒルロが流行ったのか～ 第 6講　記憶1　～記憶の亡霊～ 第 7講　記憶2　～マインドマップを描こう～ 第 8講　知能　～脳トレで頭が良くなる？～ 第 9講　発達　～赤ちゃんはワンダーランド～ 第10講　感情　～泣くから悲しい？～ 第11講　恋愛　～愛は麻薬？それとも絆？～ 第12講　ストレス　～リラックスをためよう～ 第13講　人間らしさ　～脳の中のもうひとりの私～ 第14講　ココロとカラダ　～心はどこにある？～ 第15講　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。
授業方法	講義形式で行う。基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。
評価基準と評価方法	期末試験の成績を100点満点とし，欠席回数に応じて2点ずつ減点する。 出席状況は毎回配付する感想カードで確認する。なお，感想カードに書いた内容は評価に影響しない。
教科書	テキストは使用しない。毎週，資料を配付する。
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	安達　圭一郎						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	心理学演習で作成した研究計画書に従い、卒業論文の作成をおこなう。
授業の概要	研究計画書の見直し、文献の補充、調査用紙（実験道具）などの準備、データの収集と分析といった一連の作業をおこない、論文としての体裁を整えていく。
到達目標	計画性をもって、卒業論文を作成することができる。
授業計画	第1回　オリエンテーション　今後の進め方などの確認 第2回　研究計画書の見直し①　ゼミ内での発表会をおこなう① 第3回　研究計画書の見直し②　ゼミ内での発表会をおこなう② 第4回　調査用紙・実験道具などの準備① 第5回　調査用紙・実験道具などの準備② 第6回　調査用紙・実験道具などの準備③ 第7回　調査用紙・実験道具などの準備④ 第8回　調査・実験などの実施① 第9回　調査・実験などの実施② 第10回　調査・実験などの実施③ 第11回　調査・実験などの実施④ 第12回　データの入力① 第13回　データの入力② 第14回　データの入力③ 第15回　データの入力④ 第16回　統計解析① 第17回　統計解析② 第18回　統計解析③ 第19回　論文作成①　問題・目的を書く（文献の補充） 第20回　論文作成②　方法を書く 第21回　論文作成③　結果を書く①（図、表の作成） 第22回　論文作成④　結果を書く②（図、表の作成） 第23回　論文作成⑤　考察を書く①（文献の補充） 第24回　論文作成⑥　考察を書く②（文献の補充） 第25回　論文作成⑦　今後の課題を考え、記載する 第26回　論文作成⑧　参考文献の整理と記入 第27回　論文の仕上げ①　学生相互による誤字脱字チェック 第28回　論文の仕上げ②　要約、資料の作成 第29回　論文の発表①　ゼミ内 第30回　論文の発表②　学科内
授業外における学習（準備学習の内容）	さらなる文献検索、調査・実験などの準備、データ入力、統計解析、論文作成など授業時間外での活動を意欲的におこなう必要がある。
授業方法	ゼミナール方式
評価基準と評価方法	日頃の取り組みの態度60%、論文の評価40%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	大和田　攝子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	各自が選んだテーマに沿って研究を計画・実施し、卒業論文としてまとめる。進行状況に応じて中間発表会を行うが、全体的には個別指導が中心となる。
到達目標	1. 研究計画に基づき、調査や実験を実施することができる。 2. 得られたデータを分析し、卒業論文としてまとめることができる。 3. 卒論発表会において、卒業論文の内容を分かりやすく発表することができる。
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：研究テーマの決定（1） 第3回：研究テーマの決定（2） 第4回：研究計画の立案（1） 第5回：研究計画の立案（2） 第6回：研究計画の立案（3） 第7回：研究計画の立案（4） 第8回：調査・実験の準備（1） 第9回：調査・実験の準備（2） 第10回：調査・実験の準備（3） 第11回：調査・実験の準備（4） 第12回：調査・実験の準備（5） 第13回：データ収集（1） 第14回：データ収集（2） 第15回：データ収集（3） 第16回：卒論中間発表会 第17回：データの入力と分析（1） 第18回：データの入力と分析（2） 第19回：データの入力と分析（3） 第20回：データの入力と分析（4） 第21回：論文執筆（1） 第22回：論文執筆（2） 第23回：論文執筆（3） 第24回：論文執筆（4） 第25回：論文執筆（5） 第26回：校正（1） 第27回：校正（2） 第28回：校正（3） 第29回：卒論発表会の準備 第30回：卒論発表会
授業外における学習（準備学習の内容）	調査・実験の実施やデータ処理、論文執筆等は各自のペースで自主的に進めること。
授業方法	演習形式による授業と個別指導
評価基準と評価方法	研究に取り組む姿勢（50%）と卒業論文（50%）
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	久津木　文						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業研究の実施及び論文の作成及び調査報告等の調査データの地域等への還元。
授業の概要	心理学演習で練ってきた卒業研究の計画を実施し論文としてまとめる作業及び調査結果や成果の報告。
到達目標	自らの興味を調べるために実際に実験・調査を行うことができるようになる。 集めたデータを分析し、論理的に考察したうえで、卒業論文を執筆できるようになる。
授業計画	第１回　オリエンテーション・卒業研究実施スケジュールの確認 第２回　研究計画の発表（１） 第３回　研究計画の発表（２） 第４回　実験・調査実施準備（１） 第５回　実験・調査実施準備（２） 第６回　実験・調査実施準備（３） 第７回　実験・調査の仮実施（１） 第８回　実験・調査の仮実施（２） 第９回　実験・調査方法の変更・改善（１） 第１０回　実験・調査方法の変更・改善（２） 第１１回　実験・調査の実施（１） 第１２回　実験・調査の実施（２） 第１３回　実験・調査の実施（３） 第１４回　データの入力と処理（１） 第１５回　データの入力と処理（２） 第１６回　データの入力と処理（３） 第１７回　方法、結果の発表（１） 第１８回　方法、結果の発表（２） 第１９回　論文執筆（序論１） 第２０回　論文執筆（序論２） 第２１回　論文執筆（序論３） 第２２回　論文執筆(結果１） 第２３回　論文執筆(結果２） 第２４回　論文執筆(考察１） 第２５回　論文執筆(考察２） 第２６回　問題，考察の発表と討論（１） 第２７回　問題，考察の発表と討論（２） 第２８回　文献リストの作成 第２９回　要約，資料の作成 第３０回　論文の仕上げ
授業外における学習（準備学習の内容）	卒業論文については授業時間で教えられることは限られている。 自主的に進めている実験・調査、論文執筆等の作業の報告や確認作業を授業では 行うため、その他の部分は授業外で自主的に進める必要がある。
授業方法	ゼミナール方式
評価基準と評価方法	自主的に研究を進めていく態度・能力に対する評価　60% 最終論文評価 40%
教科書	適宜資料を配布

参考書	適宜資料を配布

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	黒崎　優美						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文と研究発表
授業の概要	「心理学演習Ｂ」で得られた研究結果を考察し、卒業論文を完成させます。研究内容を発表し、共有します。
到達目標	研究内容を、学術論文、およびプレゼン資料を用いて明確に伝えることができる。 全体討議を通して、互いの研究に対する理解を深めることができる。
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　研究結果を考察する(1)　～成果～ 第３回　研究結果を考察する(2)　～課題～ 第４回　研究結果を伝える(1)　～資料作成～ 第５回　研究結果を伝える(2)　～資料改善～ 第６回　研究結果を伝える(3)　～発表1回目～ 第７回　研究結果を伝える(4)　～発表2回目～ 第８回　論文を書く(1)　～論文の書き方～ 第９回　論文を書く(2)　～目次を作る～ 第10回　論文を書く(3)　～問題～ 第11回　論文を書く(4)　～問題～ 第12回　論文を書く(5)　～方法～ 第13回　論文を書く(6)　～方法～ 第14回　論文を書く(7)　～結果～ 第15回　論文を書く(8)　～結果～ 第16回　論文を書く(9)　～考察～ 第17回　論文を書く(10)　～考察～ 第18回　論文を書く(11)　～資料等～ 第19回　論文を書く(12)　～資料等～ 第20回　論文を書く(13)　～要約～ 第21回　論文を書く(14)　～要約～ 第22回　研究内容を伝える(1)　～資料作成～ 第23回　研究内容を伝える(2)　～資料改善～ 第24回　研究内容を伝える(3)　～発表1回目～ 第25回　研究内容を伝える(4)　～発表2回目～ 第26回　研究内容を伝える(5)　～資料改善～ 第27回　卒業論文集製作(1)　～各自のページ作成～ 第28回　卒業論文集製作(2)　～共通のページ作成～ 第29回　卒業論文集製作(3)　～装幀等～ 第30回　卒業論文集製作(4)　～校正、仕上げ～
授業外における学習（準備学習の内容）	基本的な活動は授業外に行い、授業では進捗状況の確認や修正を行います。 研究テーマに関する文献にできるだけ多く触れてください。
授業方法	演習、個別指導
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度：50%、発表・提出物：50%
教科書	なし

参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	榊原　久直						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	心理学演習Bで学生各自が決定したテーマについての調査・実験等の研究を行い，その成果を卒業論文としてまとめ上げる。
到達目標	1. 自分自身の研究テーマについて，適切な方法を用いて研究を進めることができる。 2. 形式にのっとり，卒業論文を執筆することができる。 3. パワーポイント等を介して自身の研究成果を要約して他者に発表することができる。
授業計画	第1回：卒業研究テーマの最終検討① 第2回：卒業研究テーマの最終検討② 第3回：卒業研究テーマの最終検討③ 第4回：研究方法の最終検討と予備調査① 第5回：研究方法の最終検討と予備調査② 第6回：研究方法の最終検討と予備調査③ 第7回：データの収集と入力① 第8回：データの収集と入力② 第9回：データの収集と入力③ 第10回：データの収集と入力④ 第11回：データの収集と入力⑤ 第12回：データの整理と仮分析① 第13回：データの整理と仮分析② 第14回：データの整理と仮分析③ 第15回：データの分析① 第16回：データの分析② 第17回：データの分析③ 第18回：中間発表 第19回：論文の執筆①問題 第20回：論文の執筆②問題と目的 第21回：論文の執筆③方法 第22回：論文の執筆④結果 第23回：論文の執筆⑤結果と考察 第24回：論文の執筆⑥考察と引用等 第25回：卒業論文の初稿の提出 第26回：論文の修正① 第27回：論文の修正② 第28回：卒業論文の提出 第29回：卒論発表会（ゼミ内） 第30回：卒論発表会（学科内）
授業外における学習（準備学習の内容）	各自の研究テーマに沿って，自ら研究を進めていくこと必要となる。そのため必要な論文や専門書の精読，および調査活動を授業時間外においても積極的に行っていくことが必要となる。
授業方法	ゼミ形式（必要に応じて個別に研究室にて発表を行い，指導を受けることを求める）
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度：50%／卒業論文（50%）
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	坂本　真佐哉						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	心理学の研究を論文の形にまとめる。
授業の概要	カウンセリングや心理療法、コミュニケーションなどについて各自が選んだテーマについての考察を深め、卒業論文としてまとめることを目指す。進行状況に従い、随時報告、発表させ個別指導を行っていく。
到達目標	自ら選んだテーマについて研究計画を立て、研究を実施し、卒業論文の形としてまとめる。
授業計画	第１回：研究計画とディスカッション（１） 第２回：研究計画とディスカッション（２） 第３回：研究計画とディスカッション（３） 第４回：研究計画とディスカッション（４） 第５回：研究計画とディスカッション（５） 第６回：研究計画とディスカッション（６） 第７回：調査／研究の実際（１） 第８回：調査／研究の実際（２） 第９回：調査／研究の実際（３） 第10回：調査／研究の実際（４） 第11回：調査／研究の実際（５） 第12回：調査／研究の実際（６） 第13回：データ解析とプレゼンテーション（１） 第14回：データ解析とプレゼンテーション（２） 第15回：データ解析とプレゼンテーション（３） 第16回：データ解析とプレゼンテーション（４） 第17回：データ解析とプレゼンテーション（５） 第18回：データ解析とプレゼンテーション（６） 第19回：論文指導（１） 第20回：論文指導（２） 第21回：論文指導（３） 第22回：論文指導（４） 第23回：論文指導（５） 第24回：論文指導（６） 第25回：論文指導（７） 第26回：論文指導（８） 第27回：論文指導（９） 第28回：論文指導（１０） 第29回：卒業研究発表会（ゼミ内） 第30回：卒業研究発表会（全体）
授業外における学習（準備学習の内容）	選んだテーマに関する先行文献を検索し、レビューする。
授業方法	演習形式と個別指導
評価基準と評価方法	平常点および論文の内容80%、口頭試問20%
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	心理学演習で取り上げた論文などを参考に、自らの研究をすすめるための指導を行う。具体的には、研究計画（テーマ、仮説、調査・実験方法など）を作成し，それについての発表、討論を行う。後半は、研究計画にしたがって、調査・実験を行い、各自の進行状況にしたがって、個別指導をする。最後に論文を仕上げ、提出する。
到達目標	現実の社会生活に生かせる卒業論文を作成すること。
授業計画	第１回　オリエンテーション，年間計画作成 第２回　文献検索（１） 第３回　文献検索（２） 第４回　研究計画の発表（１） 第５回　研究計画の発表（２） 第６回　質問紙，実験計画の作成（１） 第７回　質問紙，実験計画の作成（２） 第８回　質問紙，実験計画の発表と討論（１） 第９回　質問紙，実験計画の発表と討論（２） 第１０回　調査，実験の実施（１） 第１１回　調査，実験の実施（２） 第１２回　調査，実験の実施（３） 第１３回　データの入力と処理（１） 第１４回　データの入力と処理（２） 第１５回　データの入力と処理（３） 第１６回　論文執筆(方法１) 第１７回　論文執筆(方法２) 第１８回　論文執筆(結果１) 第１９回　論文執筆(結果２) 第２０回　方法，結果の発表と討論（１） 第２１回　方法，結果の発表と討論（２） 第２２回　論文執筆(問題１) 第２３回　論文執筆(問題２) 第２４回　論文執筆(考察１) 第２５回　論文執筆(考察２) 第２６回　問題，考察の発表と討論（１） 第２７回　問題，考察の発表と討論（２） 第２８回　文献リストの作成 第２９回　要約，資料の作成 第３０回　論文の仕上げ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中の討論の内容をまとめ，記録しておく。 自主的に卒業論文を書き進める。
授業方法	ゼミナール形式と個人指導
評価基準と評価方法	平常点１００％
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	中村　博文						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	心理学演習Bで学生各自が決定したテーマについての研究を行い，その成果を卒業論文として提出する。
到達目標	自らが関心のあるテーマについて，適切な方法で研究を進めることができる。 形式に則った卒業論文を作成できる。
授業計画	#01：卒論ゼミの進め方についてのオリエンテーション #02：研究テーマの最終検討① #03：研究テーマの最終検討② #04：データ収集法の検討① #05：データ収集法の検討② #06：データ収集法の検討③ #07：データの収集① #08：データの収集② #09：データの収集③ #10：データの収集④ #11：データの収集⑤ #12：データのまとめ① #13：データのまとめ② #14：データのまとめ③ #15：データの分析① #16：データの分析② #17：データの分析③ #18：中間報告 #19：論文執筆① #20：論文執筆② #21：論文執筆③ #22：論文執筆④ #23：論文執筆⑤ #24：卒業論文初稿の提出 #25：論文修正① #26：論文修正② #27：論文修正③ #28：卒業論文の提出 #29：卒論発表会（ゼミ内） #30：卒論発表会（学科）
授業外における学習（準備学習の内容）	各自の研究テーマに沿って，研究を進めること。
授業方法	演習形式。個別指導が中心となる。 研究の進行に沿って，経過報告を行う。
評価基準と評価方法	研究へのコミットの程度（50%），および卒業論文（50%）。
教科書	指定しない。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation　Thesis						
担当教員	待田　昌二						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	人や動物の行動と心理について、学生各自がテーマを定めて論文を完成する。 個別指導のみならず、学生相互の発表と討論を通して研究計画を練り上げ、具体的な 研究を進め、結果の分析と考察を行なっていく。その過程で、プレゼンテーションの 技術も磨いていく。
到達目標	心理学の研究を行い、論文にまとめ発表する。
授業計画	第1回　卒論の進め方 第2回　卒論テーマの設定 第3回　卒論テーマの発表 第4回　卒論関連文献の収集 第5回　卒論関連文献のまとめ 第6回　卒論問題の構成（１） 第7回　卒論問題の構成（２） 第8回　卒論の調査・実験方法について 第9回　卒論の調査・実験方法の検討 第10回　卒論の問題・方法の発表（１） 第11回　卒論の問題・方法の発表（２） 第12回　卒論の問題・方法の発表（３） 第13回　卒論の調査・実験の実施（１） 第14回　卒論の調査・実験の実施（２） 第15回　卒論の調査・実験の実施（３） 前期終了時に　卒業論文の問題・方法部分を待田まで提出 第16回　データ入力 第17回　データ処理方法 第18回　データ分析 第19回　基本的統計 第20回　統計的検定 第21回　結果のグラフ化（１） 第22回　結果のグラフ化（２） 第23回　結果の文章化（１） 第24回　結果の文章化（２） 第25回　考察（１） 第26回　考察（２） 第27回　引用文献、目次など卒論の全体の体裁 12月後半に卒業論文原稿を待田まで提出 第28回　卒業論文原稿の手直し 卒業論文提出 第29回　卒業論文発表準備 第30回　卒業論文発表会
授業外における学習（準備学習の内容）	研究の立案、実施、分析、論文執筆、発表準備
授業方法	演習
評価基準と評価方法	平常点20%、論文60%、発表20%
教科書	使用しない

参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	対人コミュニケーション論						
担当教員	待田　昌二						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの理解
授業の概要	我々は人と出会ったときにまず外見から、次いで言葉、表情、動作などから情報を得、 同時に自分自身も多くの情報を発している。情報の発信と解読はほとんど無意識的に行われている。 このような過程、特に非言語コミュニケーションについて学んでいく。人間のコミュニケーション の能力は進化の過程で獲得してきたものなので、動物のコミュニケーションと比較しながら理解を 進める。急速に変化する現代社会は人類の歴史において非常に特殊な社会である。例えば、ほぼ 全員が顔見知りというコミュニティーでの生活から、見知らぬ人間と頻繁に出会い新しい関係を作り 上げていく生活に変わった。このような現代社会のコミュニケーションについても考えていく。
到達目標	対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションについて理解し日常のやり取りにおいても 分析的視点を持てるようになること。
授業計画	１．非言語的コミュニケーションの重要性、なぜヒトは顔にこだわるのか ２．姿かたちーなぜ様々な顔があるのか ３．姿かたちー顔立ちから性格はわかるか ４．姿勢としぐさー感情の伝達 ５．姿勢としぐさー様々なしぐさ ６．表情ー表情とは何か ７．表情ー笑い ８．情動反応 ９．目は心の窓 10. 視線―動物における重要性、子どもの発達と視線 11. 対人距離、行動観察 12. 行動観察の補足と達成度確認試験 13. 嘘は見破れるか 14. 印象操作―服装・髪型 15. 会話ー会話における非言語的コミュニケーションと達成度確認試験の解説 期末試験
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	授業時に毎回提出する小課題５０％と試験５０％
教科書	使用しない
参考書	Ｗｅｂ上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、 「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「非言語的コミュニケーション」

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	データ処理法						
担当教員	土肥　伊都子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	SPSSを用いた，データの処理法の習得
授業の概要	社会意識を質問紙によって調査し，分析するための知識を習得することが，本講義の目的である．まず，受講生が各自の調査目的にそって社会意識を概念化し，分析モデルを立て，質問紙を作成する．尺度構成の方法についても習得する．次に，サンプルの調査データ（JGSS)を，受講生自身の問題意識にそって分析し，結果をまとめる．　また，多変量解析についても，JGSSデータをSPSSによって分析することを通して習得する．
到達目標	質問紙データを適切な方法で分析，解釈，報告できるようにすること。
授業計画	第１回　　オリエンテーション　質問紙調査の概要 第２回　　質問紙調査の手順 第３回　　質問項目の作成と尺度 第４回　　データの入力と加工，JGSSデータについて 第５回　　単純集計 第６回　　グラフ 第７回　　代表値とばらつき 第８回　　複数回答データ 第９回　　クロス集計と関連性を表す統計量 第１０回　　統計的推定と検定の考え方 第１１回　　適合度・独立性・比率の差の検定 第１２回　　t検定と分散分析 第１３回　　重回帰分析 第１４回　　因子分析 第１５回　　筆記試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書の該当部分を予習しておく。 授業中の課題を各自で再度，データ分析しておく。
授業方法	SPSSを用いた，実習を交えながらの講義 毎回，プリントを配布する。
評価基準と評価方法	平常点30%，定期試験70%
教科書	岩井紀子・保田時男　「調査データ分析の基礎」　有斐閣
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	トラウマの心理学						
担当教員	高田　紗英子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	トラウマ・PTSD
授業の概要	阪神・淡路大震災により、被災者がこころに傷を負い、特徴的なストレス反応を示したことをきっかけに、日本でもPTSDやトラウマの問題が取り上げられるようになりました。 災害や事件、事故だけでなく、いじめやDV、児童虐待においても、被害を受けた人たちのこころの傷は甚大です。 本講義では、まずPTSDとトラウマの基礎知識を解説し、その上で、いじめや児童虐待、DV、犯罪被害や自然災害などがこころにもたらす影響と対策を紹介していきます。そして、被害に遭遇した人々の回復過程を取り上げ、被害・被災状況に応じた適切な支援のあり方を紹介していきます。 本講義では、各トラウマ体験を取り扱った映画や本などについて、グループでその物語の主人公が体験しているトラウマや回復過程についてパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行ってもらうことで、体験的に理解をしてもらいたいと思います。
到達目標	本講義では、事件や事故、自然災害などのトラウマティックなできごとに遭遇した際のこころの反応について、多角的に学んでいきます。 トラウマ反応やPTSD症状そして、被害を受けた人々の回復過程を理解することを目的としています。
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　トラウマとPTSD 第3回　プレゼンテーションに関するガイダンス 第4回　子どもの虐待とトラウマ(1)：虐待の種類とその影響 第5回　子どもの虐待とトラウマ(2)：被虐待児に対する心理的ケア 第6回　DVとトラウマ 第7回　いじめとトラウマ 第8回　自然災害とトラウマ 第9回　喪失体験というトラウマ 第10回　グループプレゼンテーション準備 第11回　グループプレゼンテーション(1)：各グループによる発表（対人関係に起因するトラウマ） 第12回　グループプレゼンテーション(2)：各グループによる発表（その他のトラウマ） 第13回　効果的なコミュニケーションのあり方を学ぶ（グループワーク） 第14回　ケア提供者への支援 第15回　まとめと試験 ＊各回のテーマは、授業の流れや履修者の興味関心などにより、順番の入れ替えやテーマの変更を行う可能性があります。
授業外における学習（準備学習の内容）	グループプレゼンテーションに際しては、授業外で準備をしていただく必要があるかもしれませんが、 基本的に準備学習は必要ありません。
授業方法	基本的には講義ですが、内容によってはグループワークを含めた演習形式で行います。
評価基準と評価方法	平常点（30%）、グループプレゼンテーション（30点）、試験（40点）
教科書	適宜プリントを配布します。
参考書	特にありません。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	認知心理学						
担当教員	中尾　美月						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	人の認知の特徴やしくみについて理解する。
授業の概要	認知とは「知る」ことである。 人は「こころ」を通して，外界を，他者を，そして自分自身を認知している。 この授業では，認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって，「こころ」の不思議さを実感し， 人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。
到達目標	人の認知がいかに主観的なものであり， 対象をありのままに捉えていないということを体験的に理解できるようになる。 さらには「認知が変われば人生が変わる」をキーワードに，よりよく生きるためのヒントが得られる。
授業計画	第 1講　認知心理学とは 第 2講　知覚1　～知覚の不思議～ 第 3講　知覚2　～光と色の心理学～ 第 4講　知覚3　～三次元の世界～ 第 5講　記憶1　～自由再生の実験からわかること～ 第 6講　記憶2　～感覚記憶と短期記憶～ 第 7講　記憶3　～長期記憶～ 第 8講　問題解決　～サバイバルゲーム～ 第 9講　心の病と認知1　～ストレスと認知～ 第10講　心の病と認知2　～うつと認知～ 第11講　心の病と認知3　～認知療法～ 第12講　社会的認知1　～アサーション～ 第13講　社会的認知2　～他者認知～ 第14講　まとめと試験 第15講　試験解説
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ内容を自分の日常生活に生かそうとする姿勢を歓迎する。
授業方法	講義形式で行うが，適宜，体験学習を取り入れる。 基本的にパワーポイントと配付資料で授業を進める。
評価基準と評価方法	期末試験の成績を100点満点とし，欠席回数に応じて2点ずつ減点する。 出席状況は毎回配付する感想カードで確認する。なお，感想カードに書いた内容は評価に影響しない。
教科書	テキストは使用しない。毎週，資料を配付する。
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学A						
担当教員	久津木　文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	発達心理学（新生児～幼児期）
授業の概要	人の生涯にわたる変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。 本講義では主に、新生児期から幼児期までの発達を中心に扱う。
到達目標	生まれてから死ぬまでの人間の認知の変化について簡単に説明できるようになる。
授業計画	1　オリエンテーション　発達とは 2　発達の仕組みと様相 3　乳幼児発達心理学の研究法 4　遺伝と環境 5　胎児期・新生児期 6　乳幼児期の運動発達 7　乳児期～知覚 8　乳児期～素朴物理学と素朴心理学 9　乳児期～情動・愛着の発達 10 乳児期～コミュニケーションの芽生え１前言語期 11 乳児期～コミュニケーションの芽生え２言語期 12 幼児期～社会性の発達 13 幼児期～表象の獲得 14 まとめと試験 15 試験の復習
授業外における学習（準備学習の内容）	発達心理学関係の教科書・テキスト（図書館に複数蔵書あり）を読んでおくこと。
授業方法	講義方式
評価基準と評価方法	平常点（授業態度等）30%, 期末テスト及び小レポート70%
教科書	適宜紹介する
参考書	適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学B						
担当教員	久津木　文						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	発達心理学（幼児期～成人、高齢期）
授業の概要	人の生涯にわたる変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。 本講義では主に、幼児期のコミュニケーション発達から児童期、そして成人になってからの発達的変化を扱う。 本講義を履修の際には「発達心理学A」をすでに履修しているか、「発達心理学A」で概説されている内容を図書などで理解しておくことが強く求められる。
到達目標	幼児期の心の理論や社会性、言語の獲得についての説明ができるようになる。 成人期までのの心理的・身体的な衰えを含む変化について説明ができるようになる。
授業計画	1　オリエンテーション　これまでのおさらい 2　幼児期～言語の獲得 言語を獲得する準備 3　ことばと認知１語彙獲得の制約 4　ことばと認知２語用論 5　心の理論１他者理解の発達 6　心の理論２他者理解と抑制 7　児童期　認知発達 8　児童期　社会性発達 9　文化と発達１他言語の言語発達 10　文化と発達２外国の理解の発達 11　青年期　アイデンティティ 12　成人期　親になること 13　成人期　愛着 14　まとめと試験 15　試験の復習
授業外における学習（準備学習の内容）	該当分野についてのテキスト・教科書（図書館に複数蔵書あり）を自主的に読んで理解を深めることが必要。5
授業方法	講義方式
評価基準と評価方法	平常点（授業態度等）30%, 期末テスト＋小レポート＋発表70%
教科書	適宜紹介する
参考書	適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	被害者支援の心理学						
担当教員	大和田　攝子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	被害者支援について学ぶ。
授業の概要	被害者支援において、法的な問題や経済的な問題と同様、心理的な問題が重要な位置を占めることは言うまでもない。しかしながら、被害者の心の問題に対する支援体制は未だ整っていないのが現状である。本講義では、まず被害者支援の歴史や被害者支援の現状を理解する。そして、犯罪被害者への心理的支援に関する基本的枠組みについて学習したうえで、さまざまな犯罪被害における心理的問題とその対応について解説する。さらに援助者が受けるストレスとその対応についても触れる。
到達目標	1. 被害者の心理と支援について学ぶことで、実際に身近に起こったときにどのようにすればよいか考えることができる。 2. 被害者支援に関する具体的な事例に触れることで、実際にどのような支援が行われているのかを説明することができる。
授業計画	第1回：被害者支援とは 第2回：被害者支援の歴史 ～被害者はどのように扱われてきたのか 第3回：被害者の抱える心理的問題 ～二次被害とは 第4回：被害の体験を聴く（ゲスト・スピーカー招聘予定） 第5回：被害者カウンセリングの基本 第6回：トラウマとPTSD 第7回：PTSDの心理療法 第8回：質疑応答と試験① 第9回：遺族の心理的問題と対応 第10回：性暴力被害者の心理的問題と対応 第11回：虐待被害を受けた人の心理的問題と対応 第12回：ドメスティック・バイオレンス被害者の心理的問題と対応 第13回：援助者のストレスと対応 第14回：質疑応答と試験② 第15回：グループ発表とディスカッション
授業外における学習（準備学習の内容）	参考書を事前に読んでおくことが望ましい。また、授業では小グループでの発表を予定しているので、被害者支援に関する具体的な事例を調べ、まとめておくこと。
授業方法	講義（実習も含む）
評価基準と評価方法	試験（60%）や授業中に出す課題の提出（20%）、平常点（20%）などを総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	『犯罪被害者のメンタルヘルス』小西聖子（編著）誠信書房　ISBN978-4-414-40047-2

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	非行・犯罪心理学						
担当教員	中山　誠						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	犯罪、非行について、心理学を活用して、実際を学ぶ
授業の概要	わが国で発生した重要特異事件について心理学的な考察を加える 加害者や被害者にかかわる心理学的専門職員が加害者や被害者とどのようにかかわるかを学ぶ
到達目標	犯罪の発生原因や予防について学び、構成世界観を理解する
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　犯罪情勢について 第3回　非行少年の事例(1)　楽天のブログと事件に至る経緯 第4回　非行少年の事例(2)　不可解な動機 第5回　非行少年の事例(3)　精神鑑定の結果 第6回　非行少年の処遇機関 第7回　殺人事件の事例(1)　殺人事件の発生 第8回　殺人事件の事例(2)　少年事件における無期懲役と死刑 第9回　殺人事件の事例(3)　最高裁決定 第10回　最高裁判決について　グループワーク 第11回　振り込め詐欺について 第12回　振り込め詐欺の防止について　グループワーク 第13回　科学捜査　犯罪者プロファイリング 第14回　科学捜査　精神生理学的虚偽検出 第15回　試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	実際に起きている犯罪、非行について新聞記事を整理しておく
授業方法	講義形式 グループ討議を行うことがある
評価基準と評価方法	①　試験　60% ②　レポート　20% ③　グループワーク　10% ④　新聞記事シート　10%
教科書	特に指定しない
参考書	警察白書

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学A						
担当教員	中村　博文						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学とは何か
授業の概要	本講義では，様々な臨床心理学の基礎理論を学ぶとともに，具体的な心理学的問題をどのように理解し，その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また，臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練，および倫理的問題についても学習する。
到達目標	臨床心理学という学問の特徴や基本的な概念について説明できる。 代表的な臨床心理学の基礎理論を挙げ，それらについて説明できる。 臨床心理学と自らの生活との関連を見出し，その関連について論述できる。
授業計画	#01：オリエンテーション ― 臨床心理学とは何か #02：臨床心理学の基礎理論①：精神分析 #03：臨床心理学の基礎理論②：行動療法 #04：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法 #05：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学 #06：臨床心理学の対象①：神経症・精神病 #07：臨床心理学の対象②：人格障害 #08：臨床心理学の対象③：発達障害 #09：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期 #10：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期 #11：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期 #12：臨床心理学的アセスメント #13：臨床心理行為と倫理 #14：まとめ，試験 #15：試験解題
授業外における学習（準備学習の内容）	授業各回のテーマについて，配付資料に記載されている参考文献を読み，理解を深めることを求める。
授業方法	講義形式。 毎回授業の最後に，小レポート（問いに対する回答，質問，感想）の提出を求める。
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%），および期末試験（86%）により評価する。
教科書	指定しない。毎回の授業で，プリントを配付する。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学B						
担当教員	大和田　攝子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学の基礎を学ぶ。
授業の概要	臨床心理学が対象とするさまざまな心理学的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的知識の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から発達課題と関連して生じやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について学習する。
到達目標	1. 各発達段階の心理学的特徴について説明することができる。 2. 各発達段階に生じやすい心理学的問題について具体的に説明することができる。
授業計画	第1回：オリエンテーション ―臨床心理学の対象 第2回：乳幼児期の心理学的特徴 第3回：乳幼児期に生じやすい心理学的問題 第4回：児童期の心理学的特徴 第5回：児童期に生じやすい心理学的問題 第6回：思春期の心理学的特徴 第7回：思春期に生じやすい心理学的問題 第8回：青年期の心理学的特徴 第9回：青年期に生じやすい心理学的問題 第10回：成人期の心理学的特徴 第11回：成人期に生じやすい心理学的問題 第12回：老年期の心理学的特徴 第13回：老年期に生じやすい心理学的問題 第14回：質疑応答と試験 第15回：グループ発表とディスカッション
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げるテーマは限られているので、それを補完するために小グループでの発表を予定している。授業で扱っていないテーマで、かつ各自が関心のある心理学的問題について調べ、レジュメにまとめること。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	試験（60%）や授業中に出す課題の提出（20%）、平常点（20%）などを総合的に評価する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	授業中に紹介する。